


株式会社 KIT

 **RADEN** を使おう！
実践編 Part2

はじめに

この度は弊社ソフトウェア『RADEN』をご使用いただき、誠にありがとうございます。
本書は、RADEN を使用する方々を対象にした入門書です。RADEN にふれて使い方に慣れてもらうために、図を多く用いて具体的な操作手順を本書に示しました。

著作権および商標について

RADEN は、(株) KIT の登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国マイクロソフト社の米国、および その他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

本書の一部または全部を許可なく複製、複写、転載することを禁止します。

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.

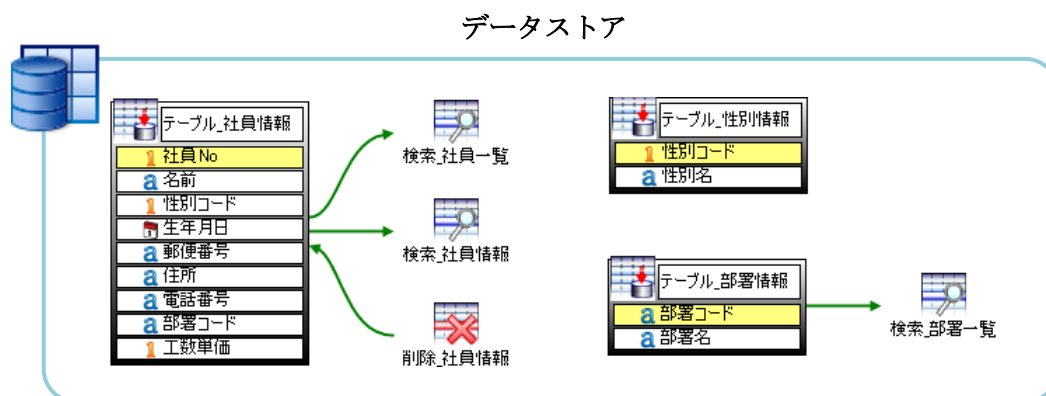
目次

第1章	データストア部品の使い方.....	1
1	一時テーブル	2
2	集計クエリ	3
2.1	集計クエリの作成	3
2.2	データリンクの設定	5
2.3	表示動作の設定	6
2.4	動作の確認	6
3	テーブルの結合.....	7
3.1	結合方法	7
3.2	結合結果	8
4	論理削除	11
4.1	削除フラグの追加	11
4.2	更新クエリの設定	12
4.3	データリンクの設定	13
4.4	更新動作の作成	15
4.5	動作の確認	16
第2章	アクションの機能	18
1	同じ処理を繰り返す.....	18
1.1	データボックスの設定	18
1.2	ループ動作の作成	19
1.3	動作の確認	25
2	コメントをつける.....	26
第3章	画面部品の使い方	28
1	リスト	29
1.1	テキストボックス	29
1.2	コンボボックス	30
1.3	チェックボックス	32
1.4	日時選択	33
1.5	行の追加	34
1.6	リストのイベント	35
2	画像	41
3	タイマー	42
3.1	時間経過イベント	42
4	カレンダー	43
4.1	表示月の切り替え	44
4.2	メモの表示	45
5	クリックダブルエリア.....	46

第1章 データストア部品使い方

『RADEN を使おう！ 実践編 Part2』では、これまでに紹介しきれなかった機能や部品について説明していきます。より充実したアプリケーションを目指して取り組んでください。

本章では、データストアで使用する部品を中心に進めていきます。
データストアは、データを取り扱う上でとても重要なオブジェクトです。



<テーブル部品>

部品		機能
	一時テーブル	プロジェクト実行中の一時的なデータ定義に使用します。データはプロジェクトの終了時にクリアされます。
	テーブル	プロジェクト実行中のデータ定義に使用します。プロジェクト終了時にデータを保持します。

<クエリ部品>

部品	機能
	検索 条件を指定してデータの検索を行います。また、並べ替え機能で昇順・降順を選択できます。
	集計 検索条件に当てはまる全てのレコードから、データの集計を行います。
	グループ集計 フィールドに指定した項目の中から、同一のデータでグループを作り、グループ毎に集計を行います。
	更新 指定した条件に合致するデータを一括で更新します。
	削除 指定した条件に合致するデータを一括で削除します。

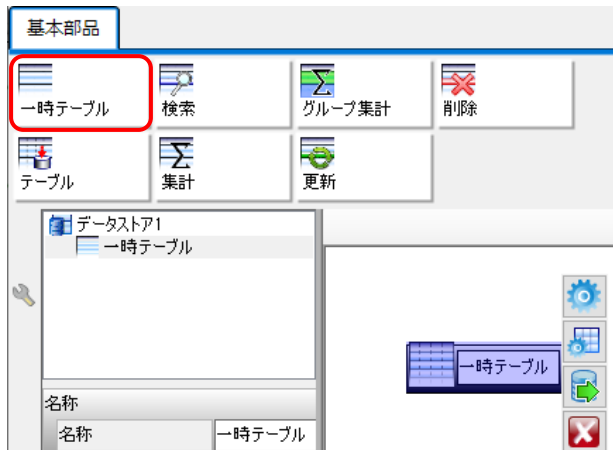
1 一時テーブル

入門編から実践編 Part1 を通して、データを登録する部品には「テーブル」部品を使用してきましたが、同じようにデータを登録する部品として「一時テーブル」部品があります。

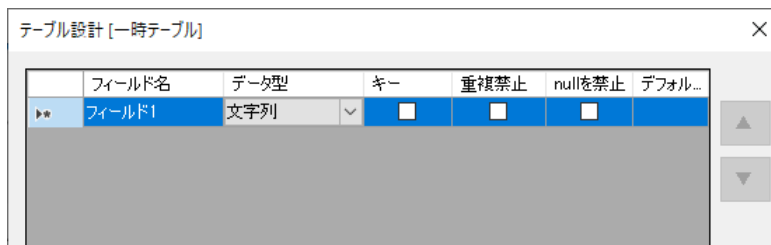
テーブル部品と一時テーブル部品の違いは、データを保持する期間です。

テーブル部品は、削除クエリなどでデータを削除する動作を実行しなければ、永続的にテーブル内に保持され続けます。

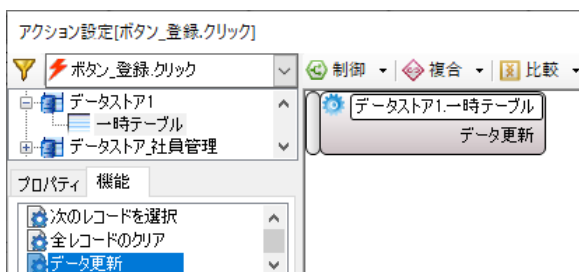
一方、一時テーブル部品は一時的にデータを保持する部品のため、アプリケーションを実行している間は保持し続けますが、アプリケーションを終了した時点でデータは自動的に失われます。アプリケーションが実行している間のみデータを保持したい場合に使用する部品です。



使用方法はテーブル部品と違いはなく、テーブル設計画面にフィールドを設定することでデータの登録場所を作成できます。



データを登録する設定も、テーブル部品同様にデータリンクを設定し、画面のアクション設定から「データ更新」機能を実行します。



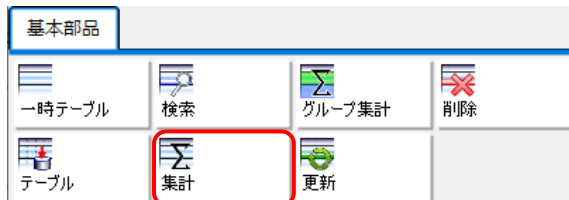
登録するデータの内容によって、テーブル部品と一時テーブル部品を使い分けてください。

2 集計クエリ

テーブルに登録されているデータを集計する場合は、「集計クエリ」部品を使用します。

集計クエリ部品では、データの「合計」「平均」「最小値」「最大値」「カウント」を行うことができます。

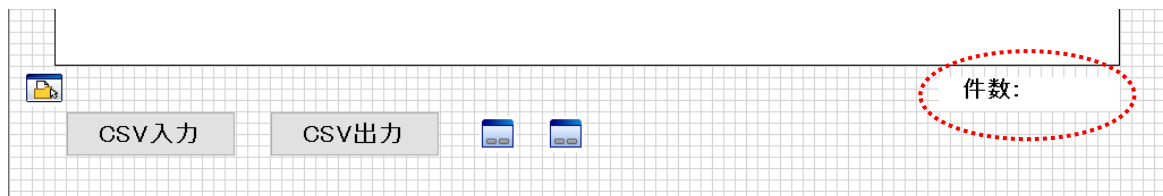
検索クエリ部品などと同様に、データストアのオブジェクト編集画面に配置して使用します。



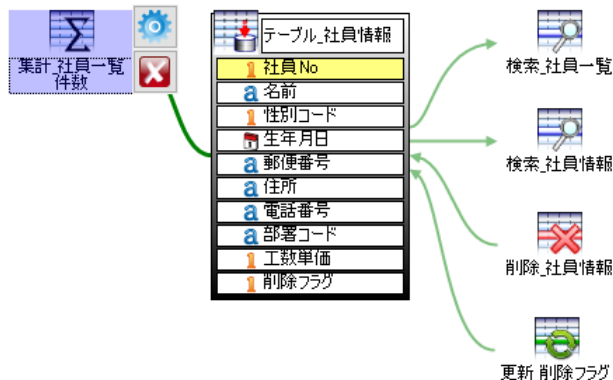
2.1 集計クエリの作成

実践編 Part1 で作成した「社員情報管理システム」のプロジェクトを開いて、一覧画面に社員情報のデータ件数を表示する機能を作成してみましょう。

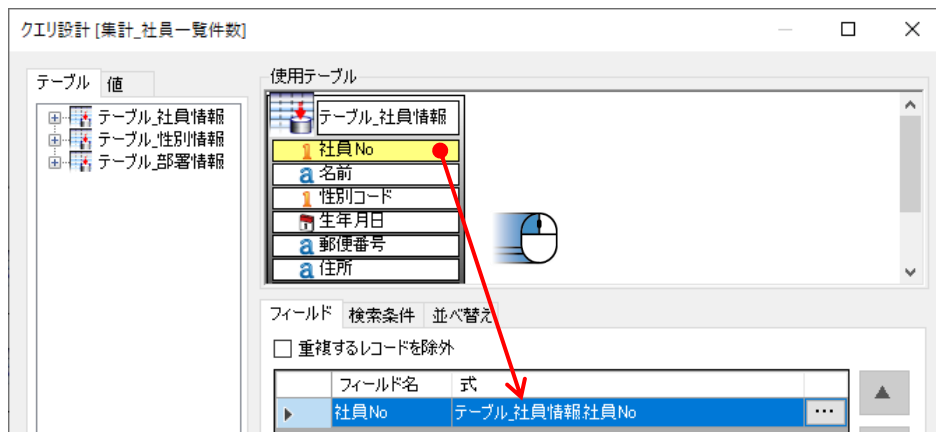
【画面_一覧】にラベル部品で件数を表示する場所を作成します。




【データストア_社員管理】のオブジェクト編集画面に「集計クエリ」部品を配置し、【テーブル_社員情報】とコネクタで接続します。

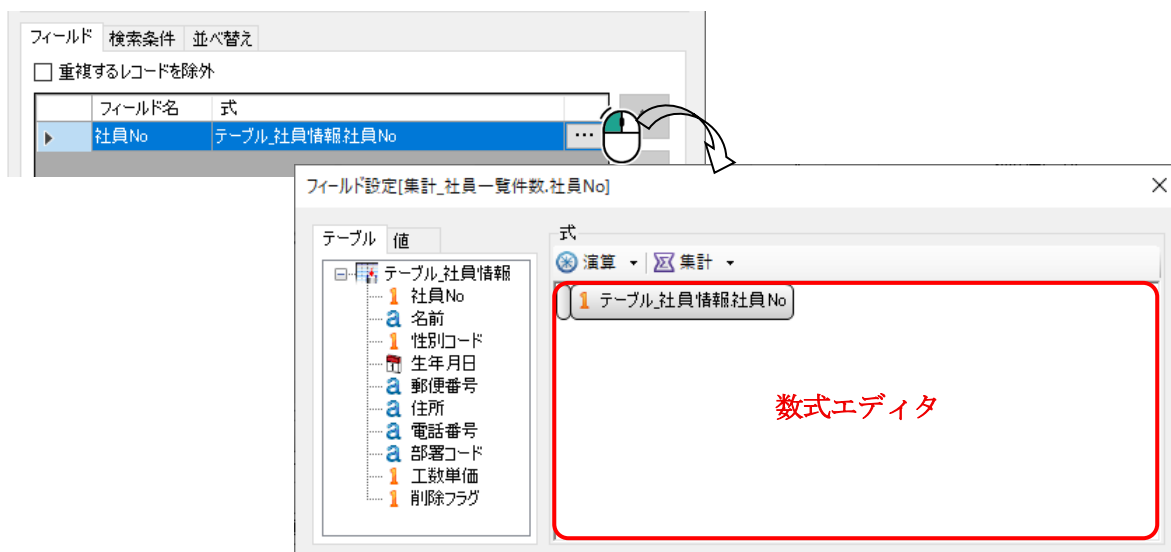


クエリ設計画面を開き、フィールドリストに「社員 No」を追加します。

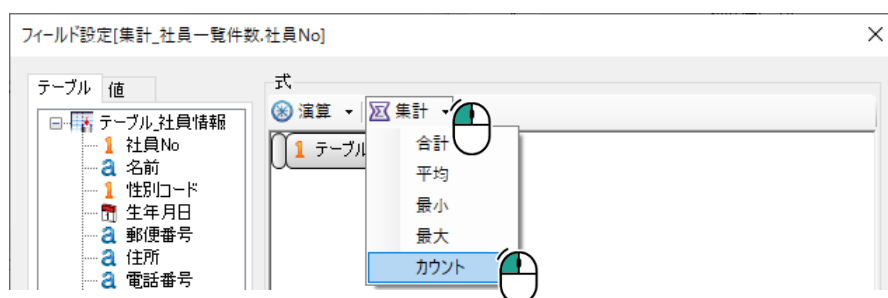


追加した「社員 No」の「式」列の右にある  ボタンをクリックして、「フィールド設定」画面を開きます。

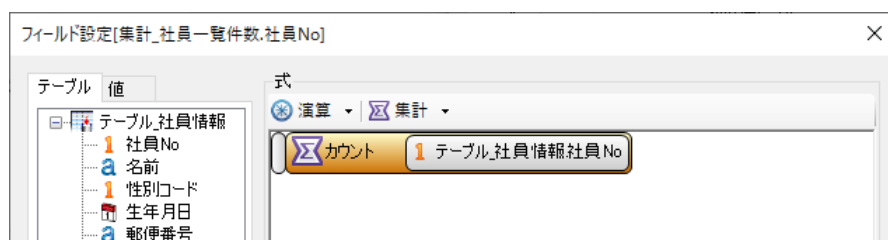
「数式エディタ」内に、各フィールドのブロックと「演算」「集計」のブロックを組み合わせることで計算式を作成することができます。



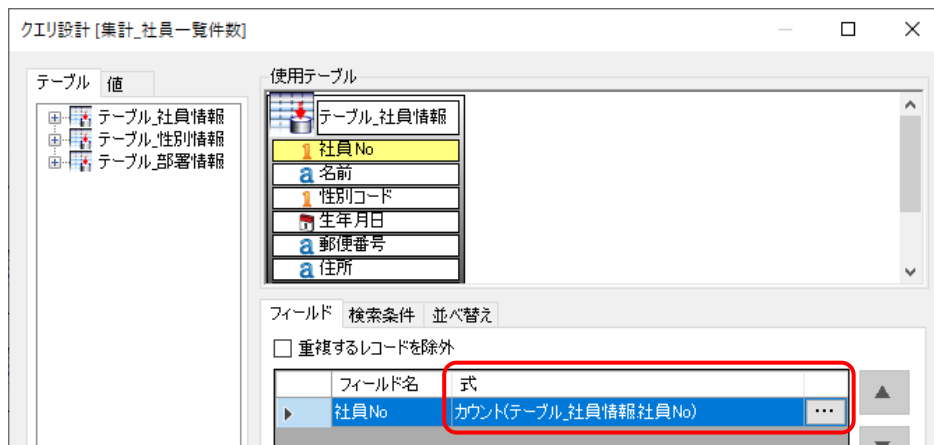
データ件数をカウントする場合は、「集計」から「カウント」を選択します。



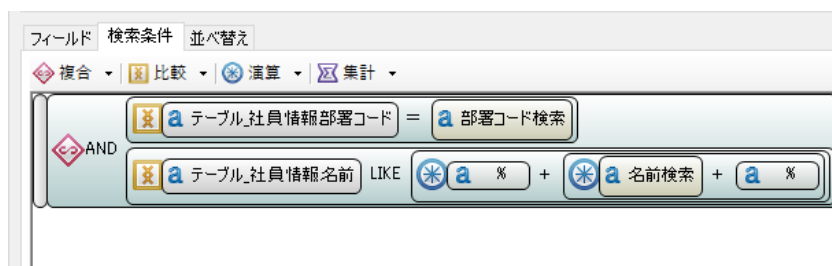
作成した「集計 (カウント) 部品」に「社員 No」ブロックを配置します。



[OK]をクリックしてフィールド設定画面を閉じると、フィールドリストの「式」列に作成した計算式が表示されます。

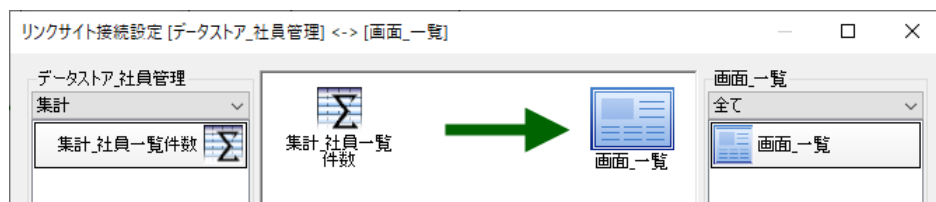


【画面_一覧】のリスト部品の一覧表示では検索条件を指定できるため、集計クエリ部品にも同じ検索条件を作成します。

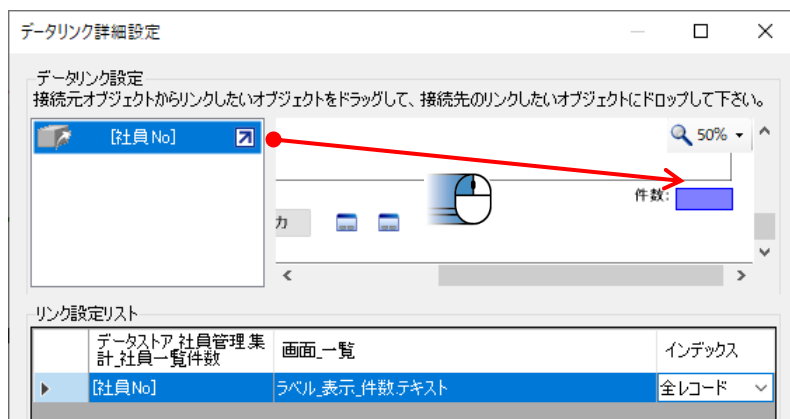


2.2 データリンクの設定

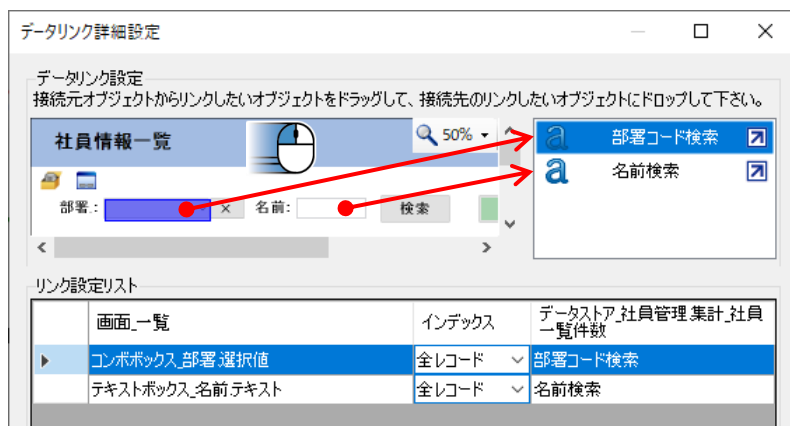
【データストア_社員管理】と【画面_一覧】間のデータリンクからリンクサイト接続設定画面を開き、作成した集計クエリから【画面_一覧】にコネクタを繋ぎます。



データリンク詳細設定画面を開き、画面に配置した件数を表示するラベル部品とリンクを設定します。



画面から検索条件を渡すデータリンク設定を行います。



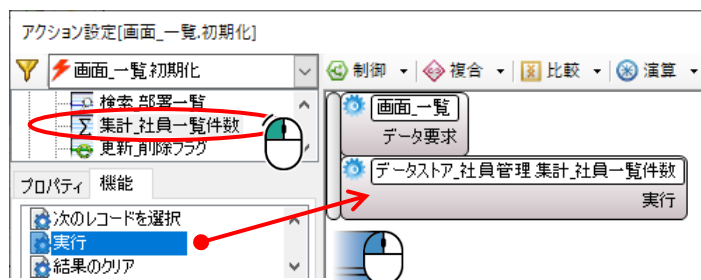
2.3 表示動作の設定

集計クエリの実行動作を【画面_一覧】でリスト部品の一覧表示を行っているアクションに設定します。

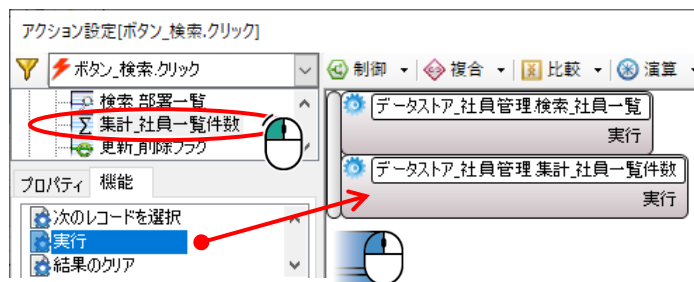
一覧表示の動作は「画面の初期化イベント」「検索ボタン・CSV入力ボタン・新規ボタン・編集ボタン・削除ボタンのクリックイベント」で行っています。

各イベントのアクション設定画面を開き、集計クエリの機能から「実行」ブロックを配置します。

<画面の初期化イベント>



<検索ボタンのクリックイベント>



2.4 動作の確認

データ件数表示の動作確認を行いましょう。

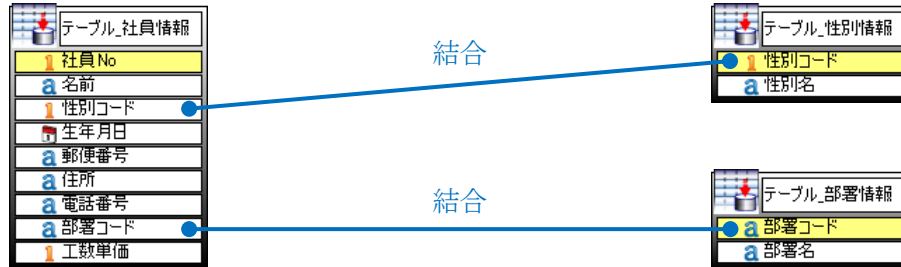
一覧画面を開き、リストの表示件数と同じ件数が表示されているか確認します。

続けて、検索条件を入力して、「検索」ボタンをクリックした後の件数も確認します。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田	080-000-0000	人事
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田		
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市		
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立		
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田		

3 テーブルの結合

『RADEN を使おう！ 実践編 Part1 第3章 データの選択と検索クエリ 8.1 リレーションシップの設定』でテーブルとテーブルの紐づけを作成しましたが、作成した結合方法とは別の方法でどのようなデータが取得されるか見てみましょう。



3.1 結合方法

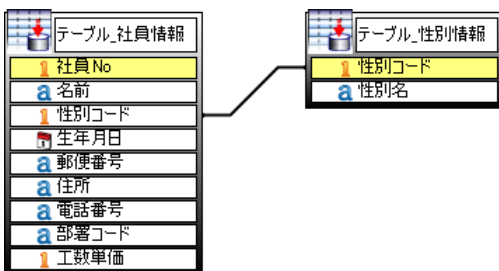
【データストア_社員管理】に検索クエリを配置して、クエリ設計画面を開きます。

「結合リスト」に【テーブル_社員情報】と【テーブル_性別】を配置して、テーブルの「性別コード」間にリレーションの線を作成します。線の右クリックで結合方法の一覧を表示します。

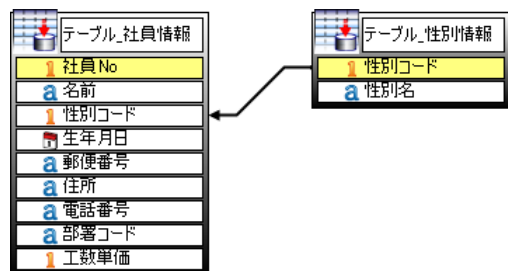
使用テーブル

① テーブル_社員情報とテーブル_性別情報の両方に存在するレコードのみ結合する
 ② テーブル_社員情報の全レコードにテーブル_性別情報のレコードを結合する
 ③ テーブル_性別情報の全レコードにテーブル_社員情報のレコードを結合する
 ④ テーブル_社員情報とテーブル_性別情報の全レコードを結合する
 × 削除(D)

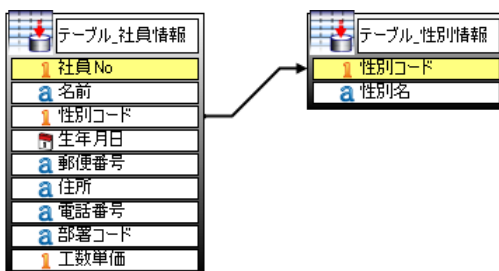
<①の表示例>



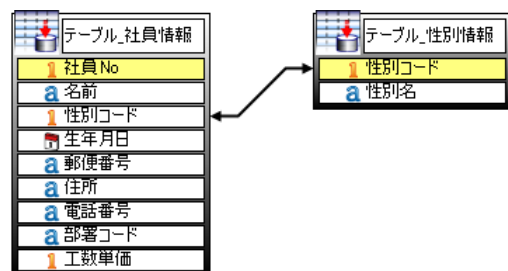
<②の表示例>



<③の表示例>



<④の表示例>



3.2 結合結果

データが登録された2つのテーブルを結合して、どのようにデータが取得されるか確認します。使用するテーブルのデータ、検索クエリの取得フィールドは以下のように作成します。

<テーブルデータ>

テーブル_社員情報	
社員No	
名前	
性別コード	
生年月日	
郵便番号	
住所	
電話番号	
部署コード	
工数単価	

データビュー								
テーブル_社員情報								テーブルデータ取得
社員No	名前	性別コード	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署コード	工数単価
1	山田 太郎	1	1975/01/01 0:00:00	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	01	4000
2	加藤 花子	2	1968/02/02 0:00:00	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	01	4000
3	佐藤 大輔	1	1970/03/03 0:00:00	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	02	4000
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000		
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000		
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000		

テーブル_性別情報	
性別コード	
性別名	

データビュー	
テーブル_性別情報	テーブルデータ取得
性別コード	性別名
1	男性
2	女性
3	不明

<クエリ設計のフィールドリスト>

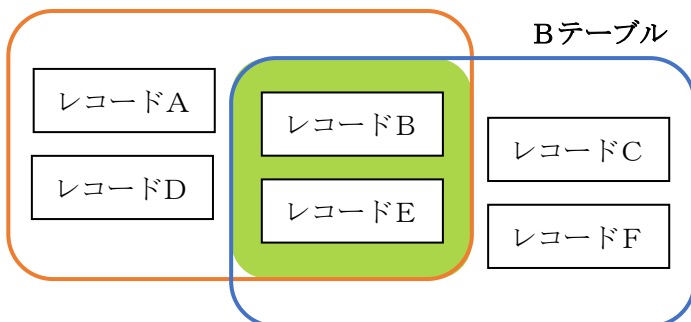
フィールド名	式
社員No	テーブル_社員情報.社員No
名前	テーブル_社員情報.名前
性別コード	テーブル_社員情報.性別コード
性別名	テーブル_性別情報.性別名

① AテーブルとBテーブルの両方に存在するレコードのみ結合する

「内部結合」と呼ばれる結合方法です。

リレーションを設定したフィールドのデータから一致するレコードのみ取得します。

Aテーブル



テーブル_社員情報	
社員No	
名前	
性別コード	
生年月日	
郵便番号	
住所	
電話番号	
部署コード	
工数単価	

テーブル_性別情報	
性別コード	
性別名	

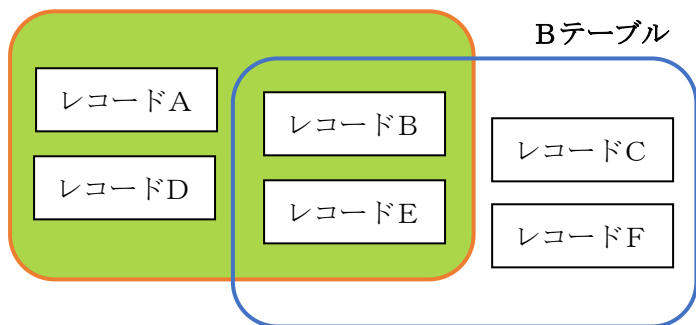
データビュー			
検索			テーブルデータ取得
[社員No]	[名前]	[性別コード]	[性別名]
1	山田 太郎	1	男性
3	佐藤 大輔	1	男性
2	加藤 花子	2	女性

② Aテーブルの全レコードにBテーブルのレコードを結合する

「左優先外部結合」と呼ばれる結合方法です。

左側のテーブルを基準にデータを取得します。一致しないデータがある場合、右側のテーブル項目は空で取得されます。

Aテーブル



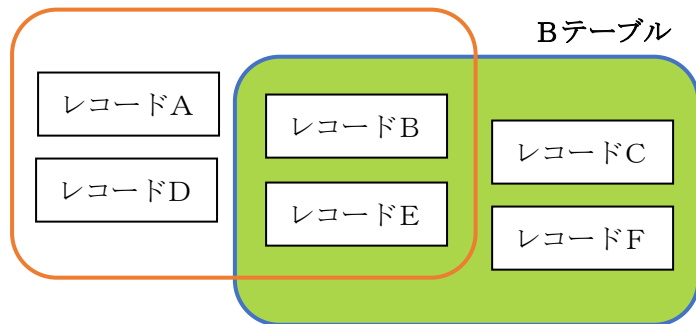
テーブル:社員情報	テーブル:性別情報	データビュー	
社員No	性別コード	[社員No]	[名前]
a 名前	a 性別名	[性別コード]	[性別名]
性別コード		1	山田 太郎
生年月日		2	加藤 花子
a 郵便番号		3	佐藤 大輔
a 住所		4	鈴木 春奈
a 電話番号		5	田中 信二
a 部署コード		6	木村 孝也
工数単価			

③ Bテーブルの全レコードにAテーブルのレコードを結合する

「右優先外部結合」と呼ばれる結合方法です。

右側のテーブルを基準にデータを取得します。一致しないデータがある場合、左側のテーブル項目は空で取得されます。

Aテーブル



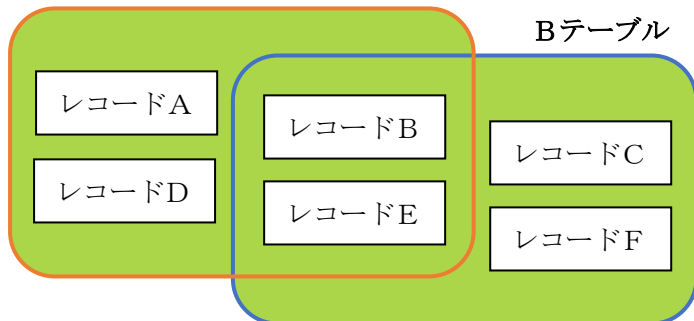
テーブル:社員情報	テーブル:性別情報	データビュー	
社員No	性別コード	[社員No]	[名前]
a 名前	a 性別名	[性別コード]	[性別名]
性別コード		1	山田 太郎
生年月日		3	佐藤 大輔
a 郵便番号		2	加藤 花子
a 住所			不明
a 電話番号			
a 部署コード			
工数単価			

④ AテーブルとBテーブルの全レコードを結合する

「完全外部結合」と呼ばれる結合方法です。

リレーションを設定したフィールドのデータが一致する、一致しないにかかわらず、全レコードを取得します。

Aテーブル



テーブル:社員情報	
社員No	
a 名前	
性別コード	
生年月日	
a 郵便番号	
a 住所	
a 電話番号	
a 部署コード	
工数単価	

テーブル:性別情報	
性別コード	
a 性別名	

データビュー			
検索			
▼ テーブルデータ取得			
[社員No]	[名前]	[性別コード]	[性別名]
1	山田 太郎	1	男性
1	山田 太郎	1	女性
1	山田 太郎	1	不明
2	加藤 花子	2	男性
2	加藤 花子	2	女性
2	加藤 花子	2	不明
3	佐藤 大輔	1	男性
3	佐藤 大輔	1	女性
3	佐藤 大輔	1	不明
4	鈴木 春奈		男性
4	鈴木 春奈		女性
4	鈴木 春奈		不明
5	田中 信二		男性
5	田中 信二		女性
5	田中 信二		不明
6	木村 孝也		男性
6	木村 孝也		女性
6	木村 孝也		不明



別々のデータストアにあるテーブルは結合できません。結合したい場合は、データベース間でデータの移動をする必要があります。



4 論理削除

削除には「物理削除」と「論理削除」があります。

実践編で説明した削除方法は「物理削除」です。一度データを消してしまうと復元できず、必要な場合登録し直さなければなりません。

一方で「論理削除」とは、テーブル内にフラグとなるフィールドを作成し、データ検索によりフラグの登録されていないデータを取得することで、データは登録されているがユーザーにはデータが削除されているように見える方法です。誤ってデータを削除されることがないので、マスターデータなど削除されては困るデータに有用な方法ですが、データ設計が少し複雑になり、データが完全に削除されないためデータ量が増え続けてしまうデメリットがあります。

双方のメリット・デメリットを理解し、状況によって使い分けましょう。

物理削除

データビュー

テーブル_社員情報

社員No	名前	性別コード	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署コード	工数単価	退職フラグ
1	山田 太郎	1	1975/01/01 0:00:...	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	01	4000	0
2	加藤 花子	2	1968/02/02 0:00:...	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	01	4000	1
3	佐藤 大輔	1	1970/03/03 0:00:...	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	02	4000	0

論理削除

データビュー

テーブル_社員情報

社員No	名前	性別コード	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署コード	工数単価	退職フラグ	削除フラグ
1	山田 太郎	1	1975/01/01 0:00:...	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	01	4000	0	
2	加藤 花子	2	1968/02/02 0:00:...	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	01	4000	1	
3	佐藤 大輔	1	1970/03/03 0:00:...	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	02	4000	0	1

4.1 削除フラグの追加

論理削除を作成する場合、論理削除を行うテーブルに「削除フラグ」のフィールドを作成します。削除対象のデータには「1」を登録することを想定してデータ型は「数値」にします。

【テーブル_社員情報】のテーブル設定画面を開き、フィールドを追加しましょう。

テーブル_社員情報

フィールド追加

社員No
名前
性別コード
生年月日
郵便番号
住所
電話番号
部署コード
工数単価
退職フラグ
削除フラグ

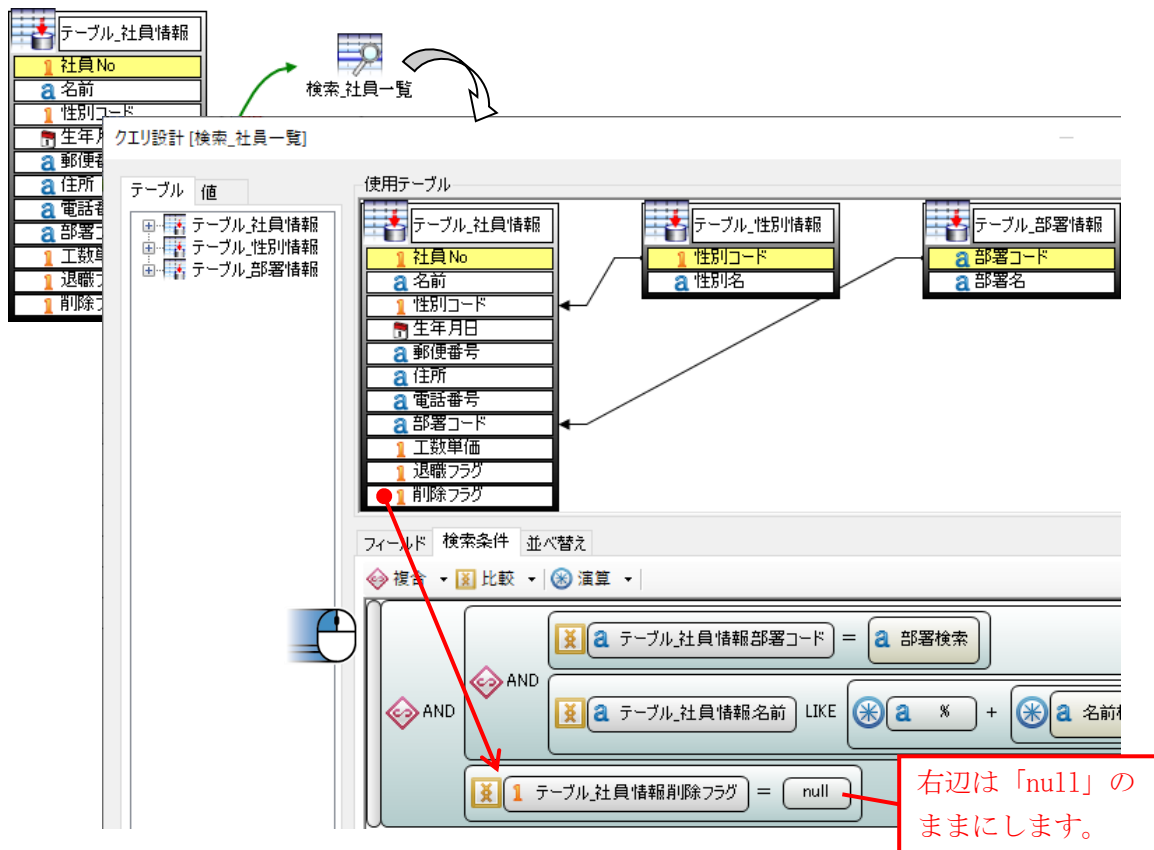
テーブル設計 (テーブル_社員情報)

フィールド名	データ型	キー	重複禁止	nullを禁止	デフォルト値
社員No	数値	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
名前	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
性別コード	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
生年月日	日時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
郵便番号	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
住所	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
電話番号	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
部署コード	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
工数単価	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
退職フラグ	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
削除フラグ	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

OK キャンセル

データを取得する検索クエリの検索条件に、削除フラグが登録されているデータが取得されないような条件を作成します。

【検索_社員一覧】のクエリ設計画面を開き、検索条件を作成しましょう。



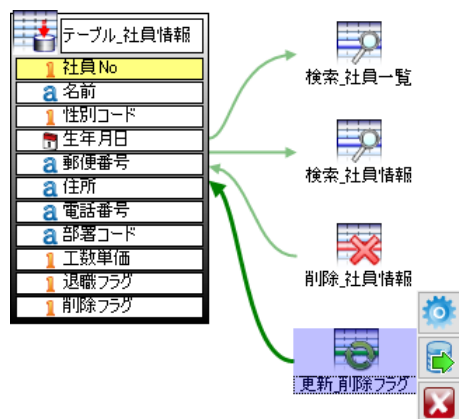
4.2 更新クエリの設定

削除フラグは一覧画面の「削除」ボタンをクリックした時に更新されるように作成します。既にテーブルに登録されているデータに対して更新を行う場合は、「更新クエリ」を使用します。

登録画面のデータ登録で行っている「テーブルのデータ更新」は、「インサート（データの追加）」と「アップデート（データの更新、「キー」項目が設定されているテーブルの場合）」を行います。更新クエリは「アップデート」のみ行う部品です。

更新の条件を作成できるため、特定のデータのみ更新したい時などに有用な部品です。

【データストア_社員管理】に「更新クエリ」を配置し、【テーブル_社員情報】とコネクタで接続します。



更新クエリのクエリ設計画面を開き、削除クエリの条件を作成した時と同様に「社員 No」と「新規パラメータ（数値）」を使用した条件を作成します。

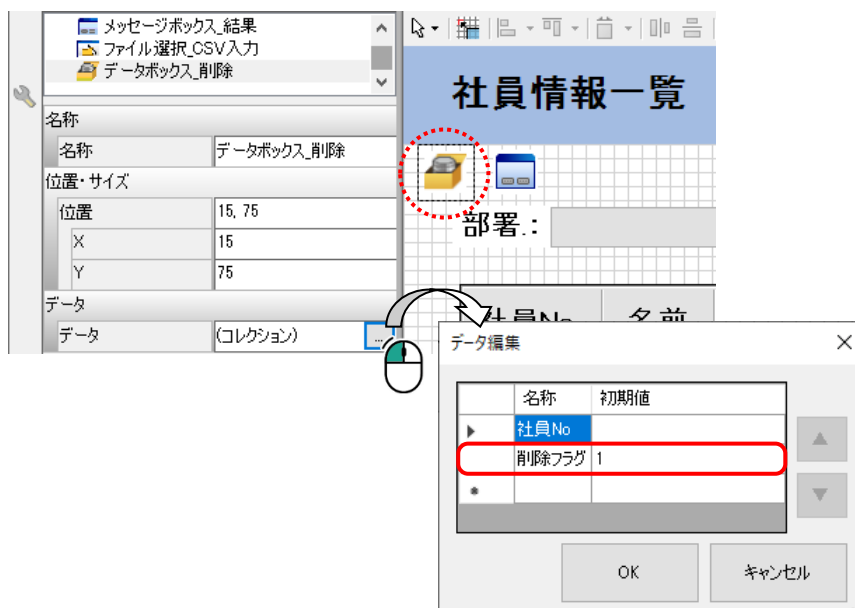


4.3 データリンクの設定

更新クエリへのデータリンクを作成する前に、削除フラグとなる「1」を保持する場所を作成します。

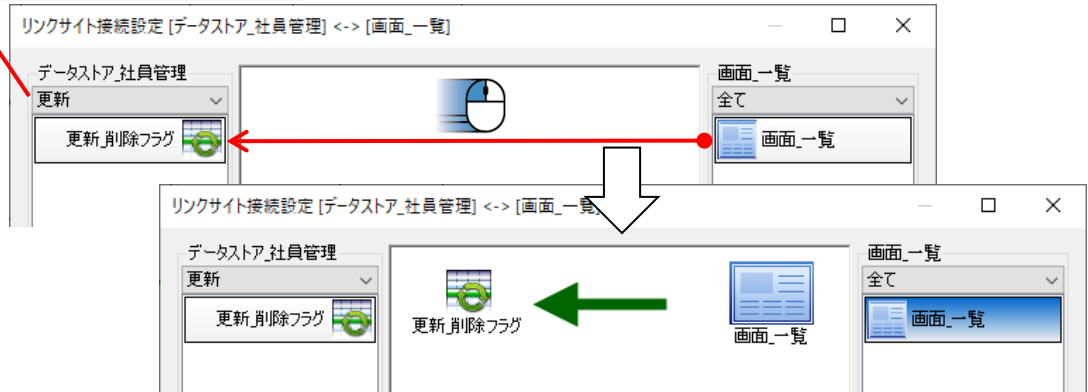
【画面一覧】のオブジェクト編集画面を開き、削除機能を作成した時に配置した「データボックス」部品の「データ」プロパティから ボタンをクリックして、データ編集画面を開きます。

「社員 No」の下のセルをクリックして、「削除フラグ」と入力します。「初期値」の列には「1」と入力します。



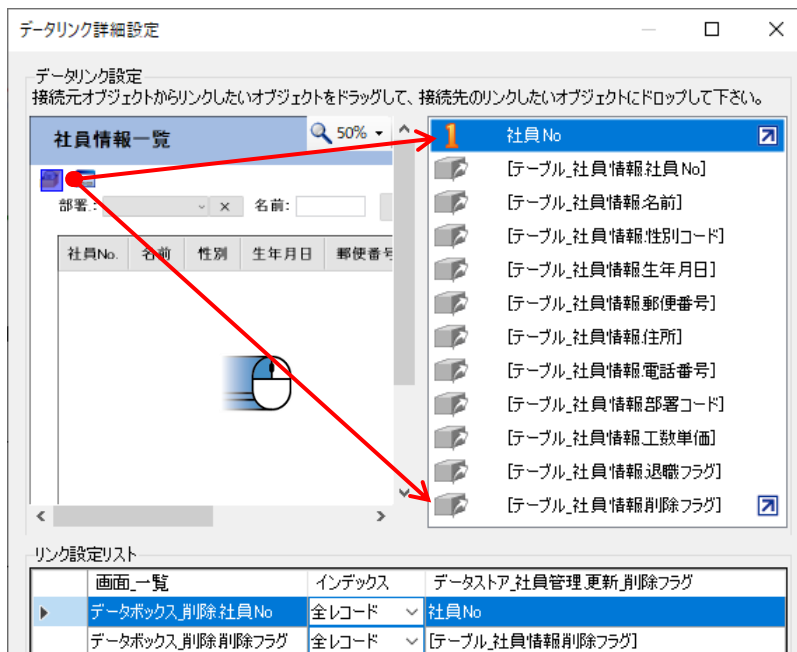
データボックス部品の設定が完了したら、【データストア_社員管理】と【画面_一覧】間に接続されているデータリンクからリンクサイト接続設定を開き、【画面_一覧】から【更新_削除フラグ】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎます。

コンボボックスから表示する部品を絞り込めます。

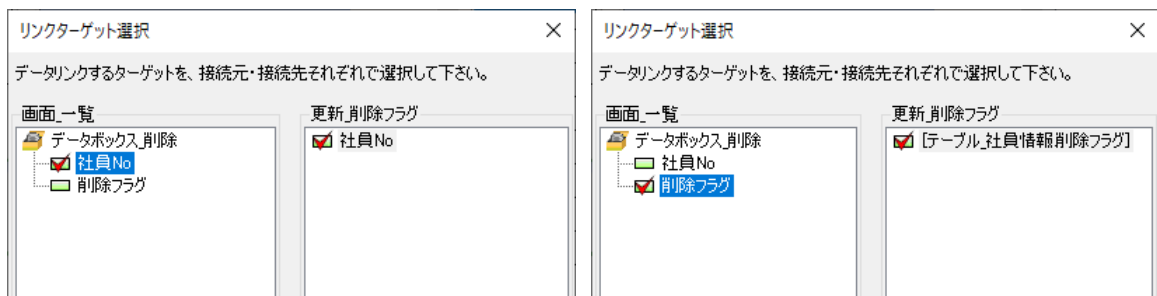


繋いだコネクタからデータリンク詳細設定画面を開きます。

更新条件の「社員No (新規パラメータ)」とデータボックス部品の「社員No」、テーブルの「削除フラグ」とデータボックス部品の「削除フラグ」にそれぞれリンクを設定します。



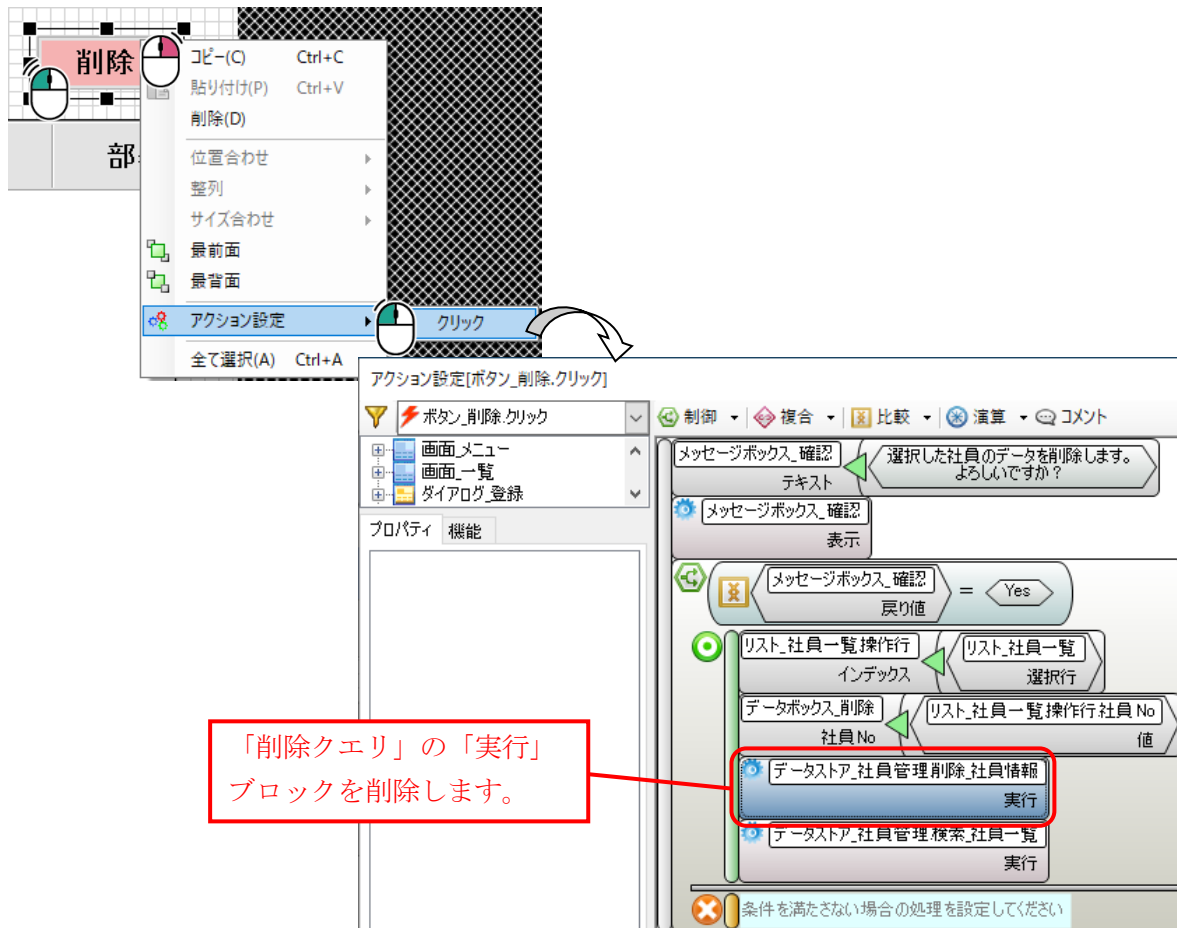
リンク設定時、「リンクターゲット選択」画面が開きます。それぞれ同じ名称の項目にチェックを入れます。



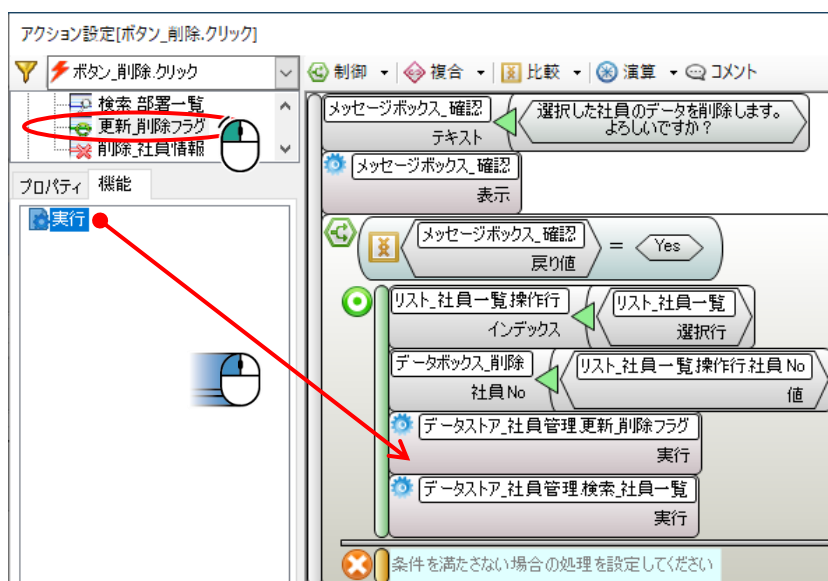
4.4 更新動作の作成

更新クエリの実行動作は画面のアクションで設定します。

【画面_一覧】に配置されている「削除」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、実践編 Part1 で作成した「削除クエリ」の削除機能（物理削除）を、「更新クエリ」を使用した削除機能（論理削除）に変更します。



【削除_社員情報】の「実行」ブロックが配置されていた場所に、【更新_削除フラグ】の機能から「実行」ブロックを配置します。



4.5 動作の確認

論理削除の動作確認を行きましょう。

一覧画面を開き、削除する行を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

確認メッセージが表示されたら[はい(Y)]をクリックし、リストから選択した行のデータが削除されていることを確認します。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

プレビュー中画面の「データ表示」をクリックして、テーブルの登録データを確認します。

プレビュー中

メッセージ データ表示

データビュー

テーブル_社員情報

データストア_社員管理
テーブル_社員情報
テーブル_性別情報
テーブル_部署情報
検索
検索_社員一覧
検索_社員情報
検索_部署一覧
画面_一覧
データボックス_削除

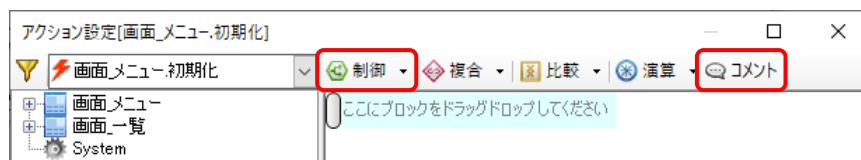
テーブル_社員情報

社員No	名前	性別コード	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署コード	工数単価	退職フラグ	削除フラグ
1	山田 太郎	1	1975/01/01 0:00:00	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	01	4000	0	
2	加藤 花子	2	1968/02/02 0:00:00	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	01	4000	1	
3	佐藤 大輔	1	1970/03/03 0:00:00	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	02	4000	0	1
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000				
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000				
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000				

第2章 アクションの機能

アクションには、これまで紹介した以外にも様々な機能があります。ブロックの組み合わせでアプリケーションに複雑な動きをさせることも可能です。

本章では、アクション設定画面のツールバーに並んでいるアイコンの中から、使用していない「ループ」「ブレイク」「コメント」を用いたアクションの作成方法について説明します。



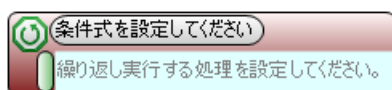
1 同じ処理を繰り返す

同じ処理を繰り返す動作を作成する場合は、「制御」から「ループ」ブロックを使用します。

例えば、ファイル入出力やデータ取得に失敗してエラーが出た時、自動でリトライする処理を設定することができます。

「社員管理システム」に作成した CSV ファイルの出力機能にエラー時のリトライ処理を作成してみましょう。

ループ



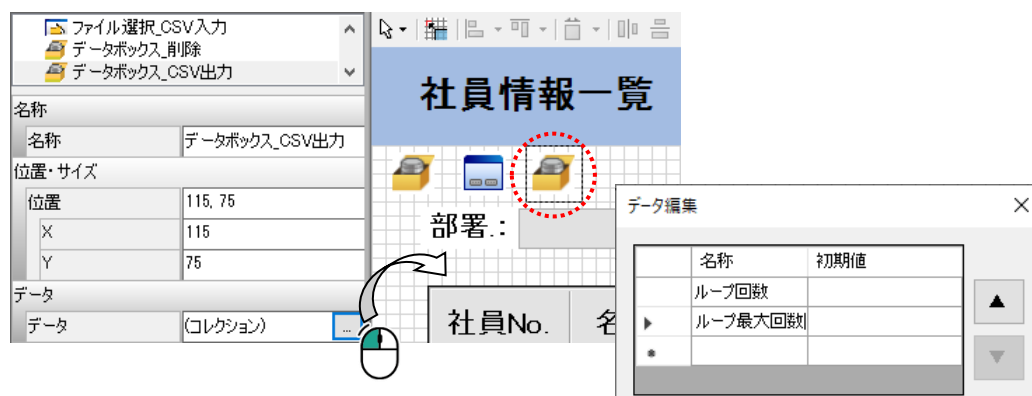
ループ動作を作成する時に気を付けなければならないのが、ループ回数の設定です。ループの最大回数をあらかじめ指定するなど、必ず発生する条件でループを抜けることができなければ、無限ループとなりループから抜け出せなくなります。

確実なのはループ回数と最大回数をデータボックス部品などに保持しておき、ループ回数が最大回数を上回った時にループを抜ける処理を作成する方法です。

1.1 データボックスの設定

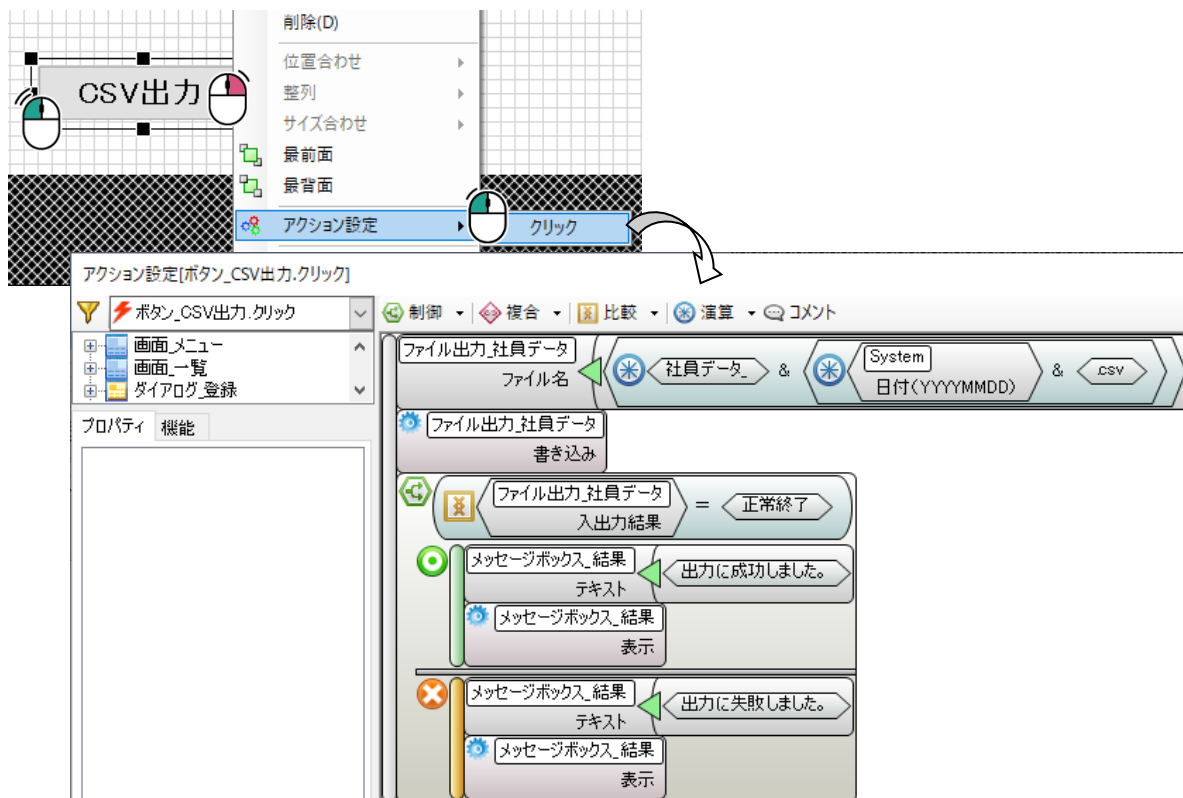
【画面_一覧】のオブジェクト編集画面を開き、データボックス部品を配置します。

データボックス部品の「データ」プロパティからデータ編集画面を開き、名称に「ループ回数」「ループ最大回数」を入力します。



1.2 ループ動作の作成

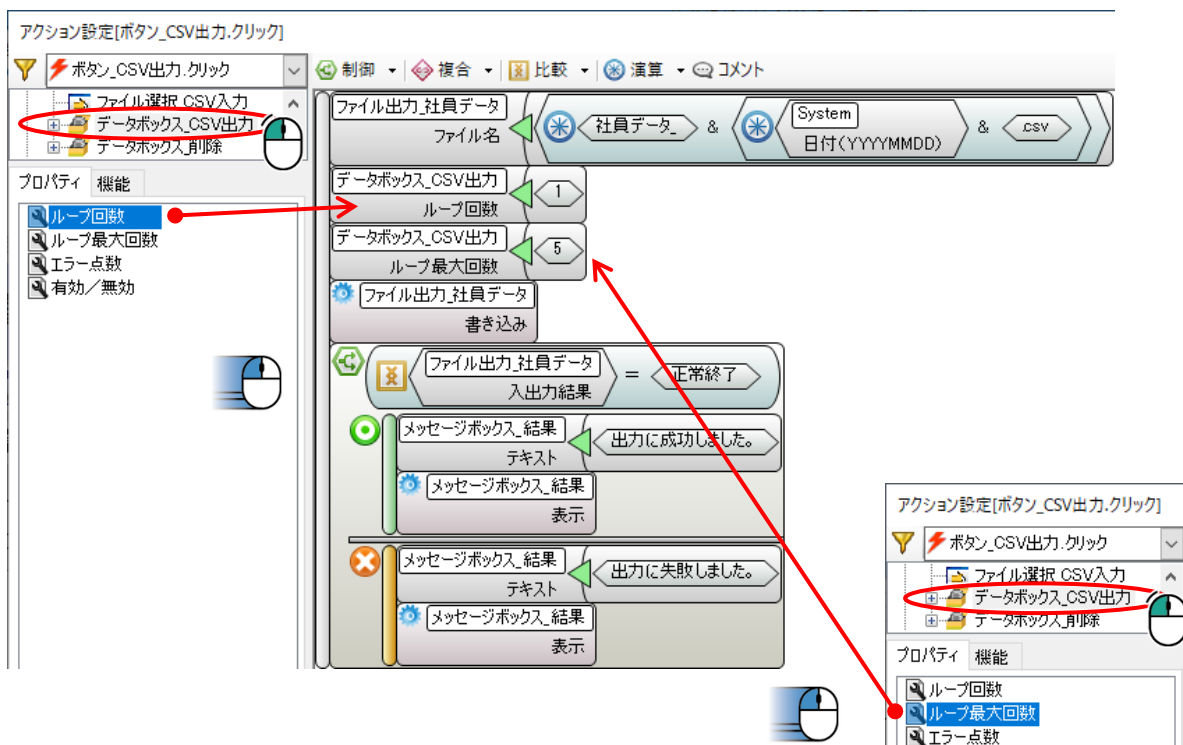
「CSV 出力」 ボタン部品のクリックイベントのアクション設定を開きます。



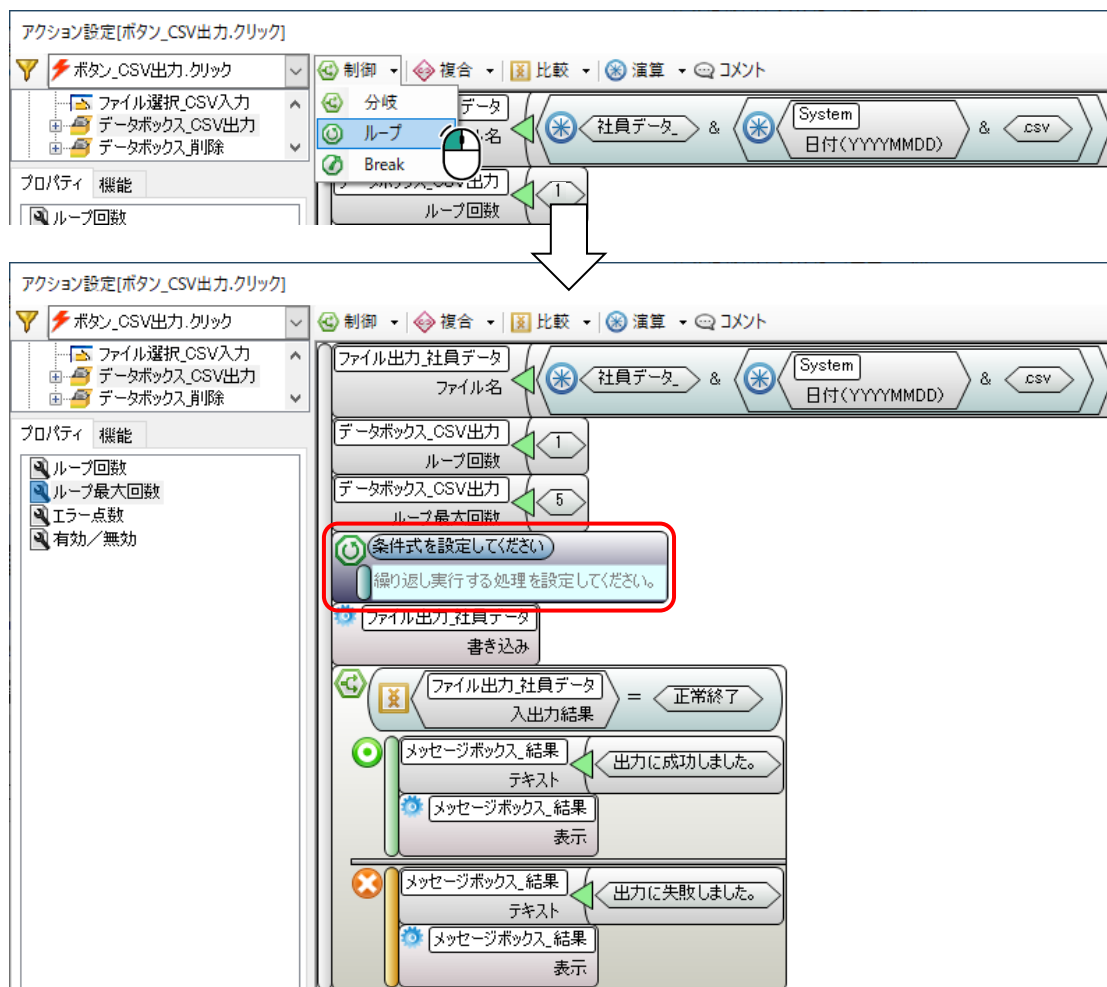
「書き込み」ブロック以降の処理をループ処理の中に入れ、出力に失敗した場合はループ最大回数を上限としてリトライする動作を作成します。

初めに、先程作成したデータボックス部品のプロパティから「ループ回数」「ループ最大回数」を「書き込み」ブロックの上に配置します。

「ループ回数」ブロックには「1」、「ループ最大回数」ブロックには「5」を入力します。

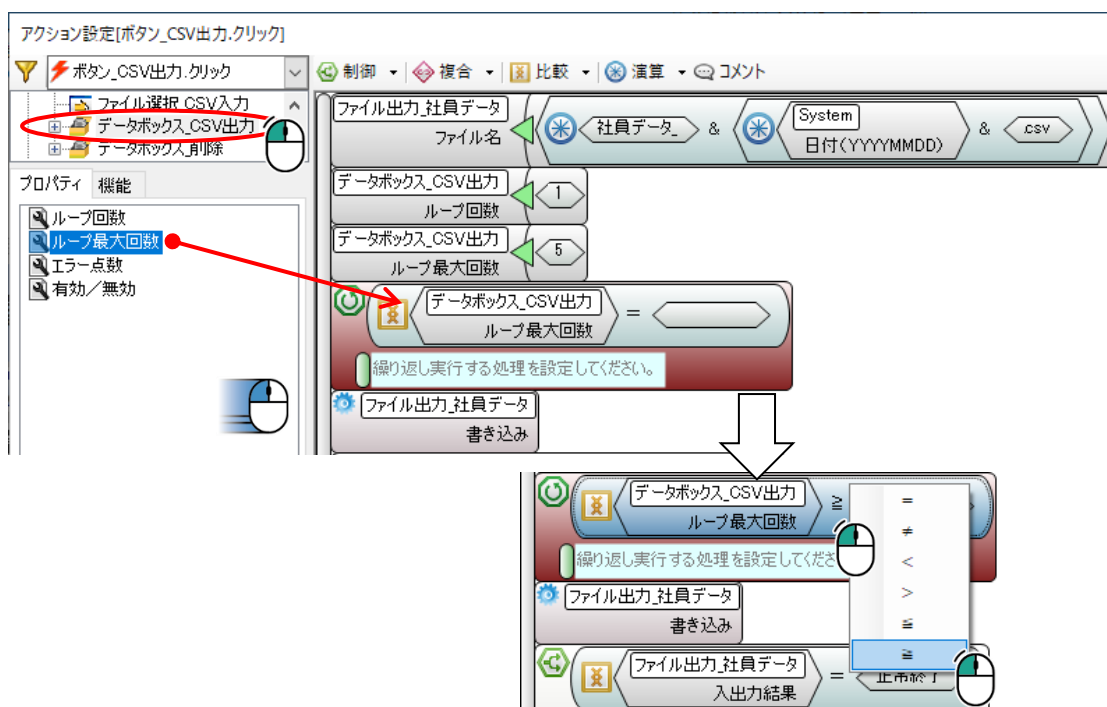


次に、「制御」から「ループ」ブロックを作成し、「ループ最大回数」ブロックの下に配置します。

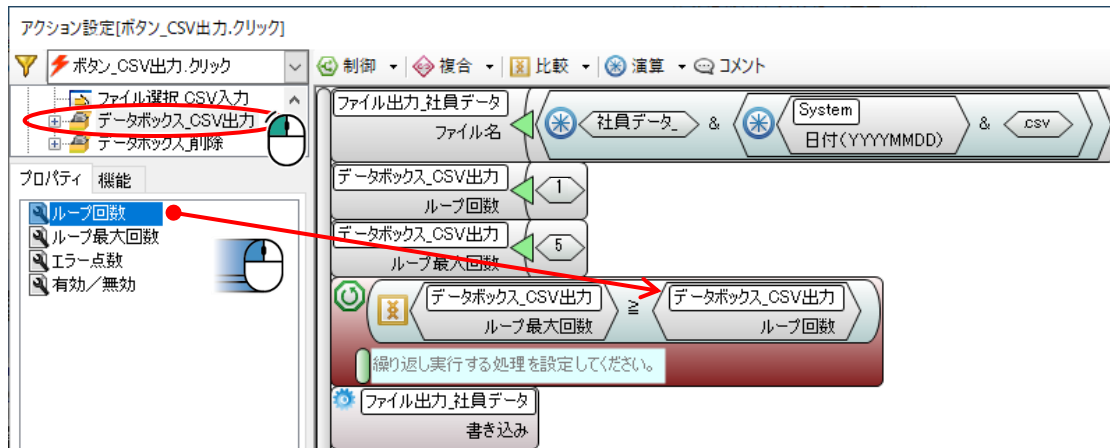


「ループ」ブロックの条件式に、データボックス部品のプロパティから「ループ最大回数」ブロックを配置すると、「比較 (=)」ブロックに入った状態になります。

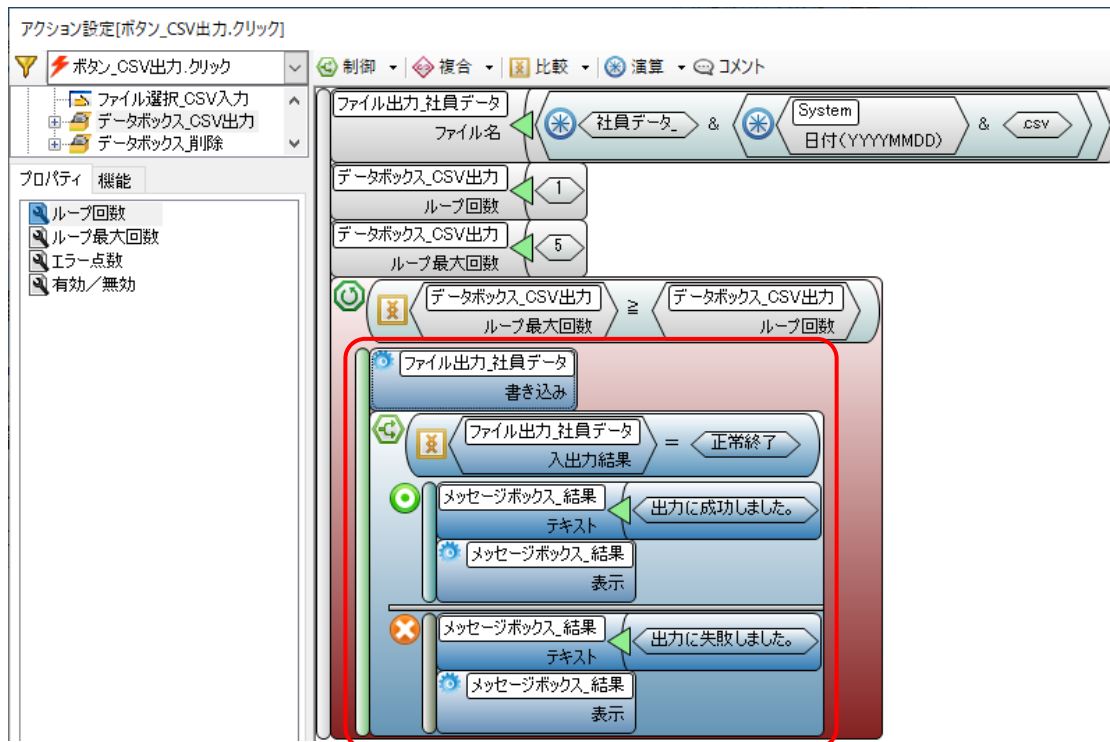
「比較 (=)」を「比較 (≥)」に変更します。



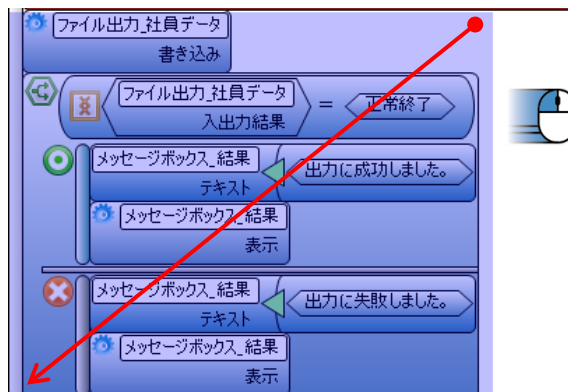
「比較 (≧)」ブロックの右辺に、データボックス部品のプロパティから「ループ回数」ブロックを配置します。



条件ができれば、「書き込み」ブロック以降の処理をループ内に移動させます。

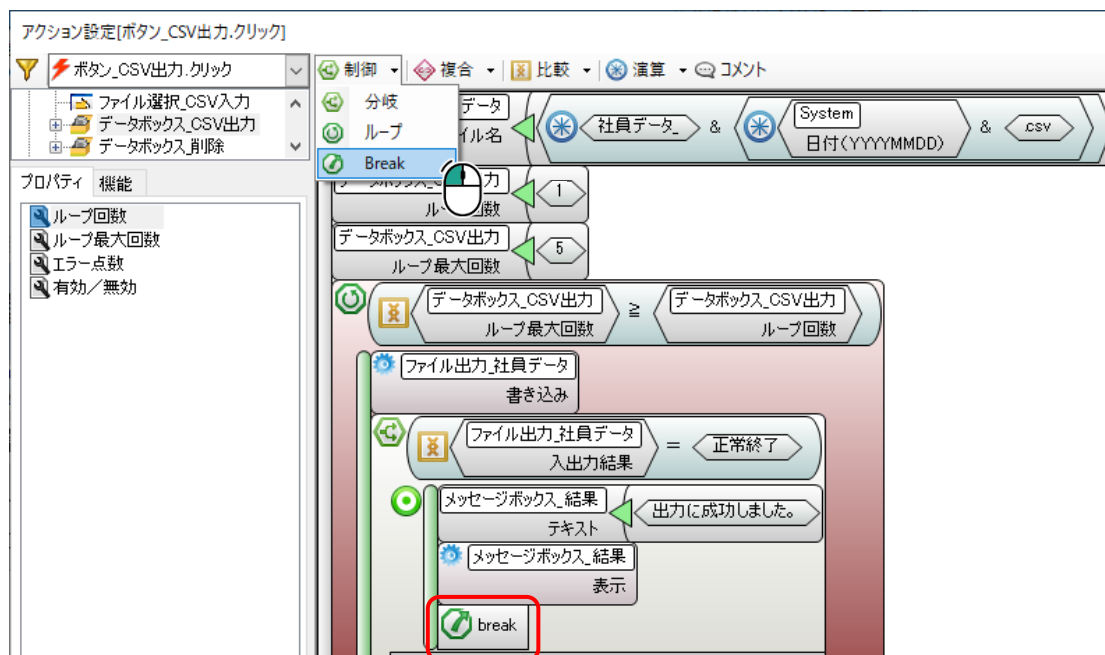


複数のブロックを選択する時は、ブロックエディタ内でブロックの置かれていない場所から選択する範囲までドラッグ&ドロップすると複数のブロックが選択状態になります。



CSV ファイルの出力が正常終了した場合はリトライ処理の必要がないため、「break」ブロックを使用してループから抜けます。

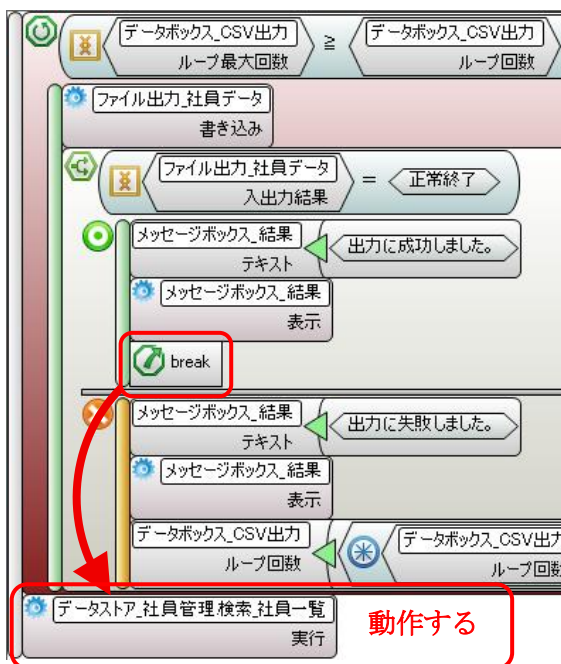
「分岐」から「break」を選択し、作成したブロックを「分岐」ブロックの条件を満たす（CSV 出力に成功した）場合の処理の最後に配置します。



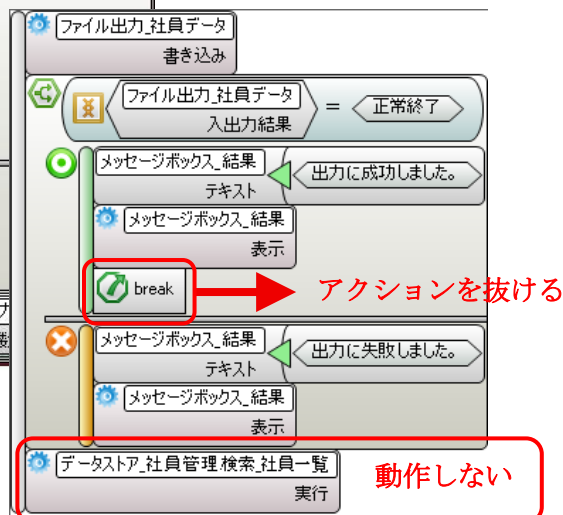
「ループ」ブロックの下にブロックが配置されている場合、「break」ブロックでループを抜けた後に次のブロックが動作します。

「ループ」ブロック内以外の場所に「break」ブロックを配置している場合は、アクション自体が終了します。

＜ループの場合＞

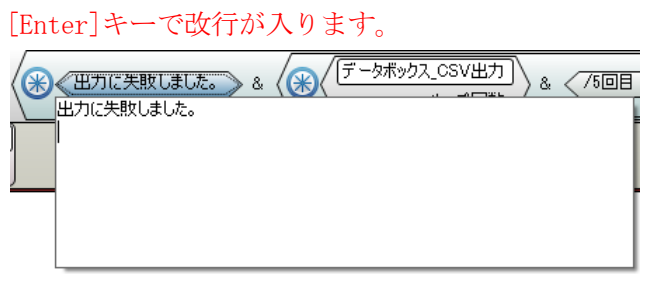
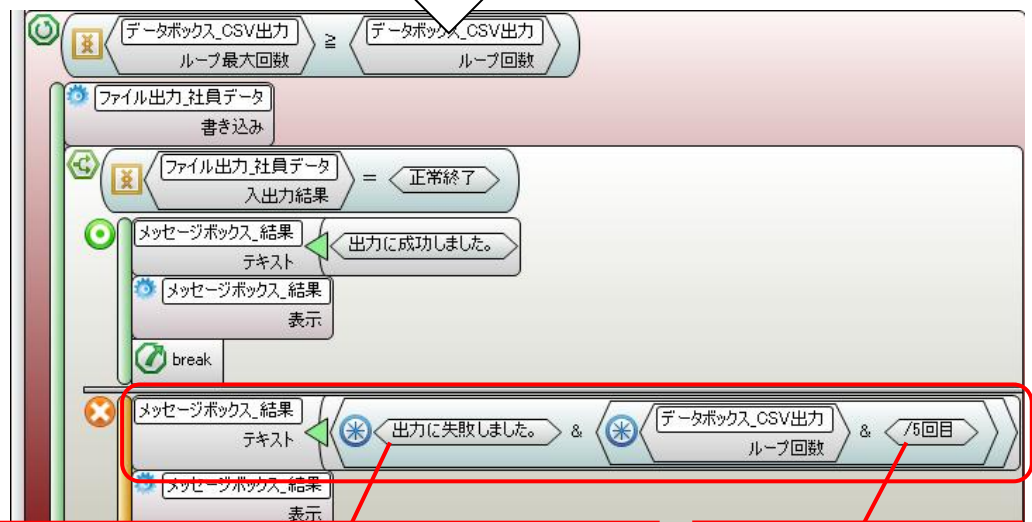
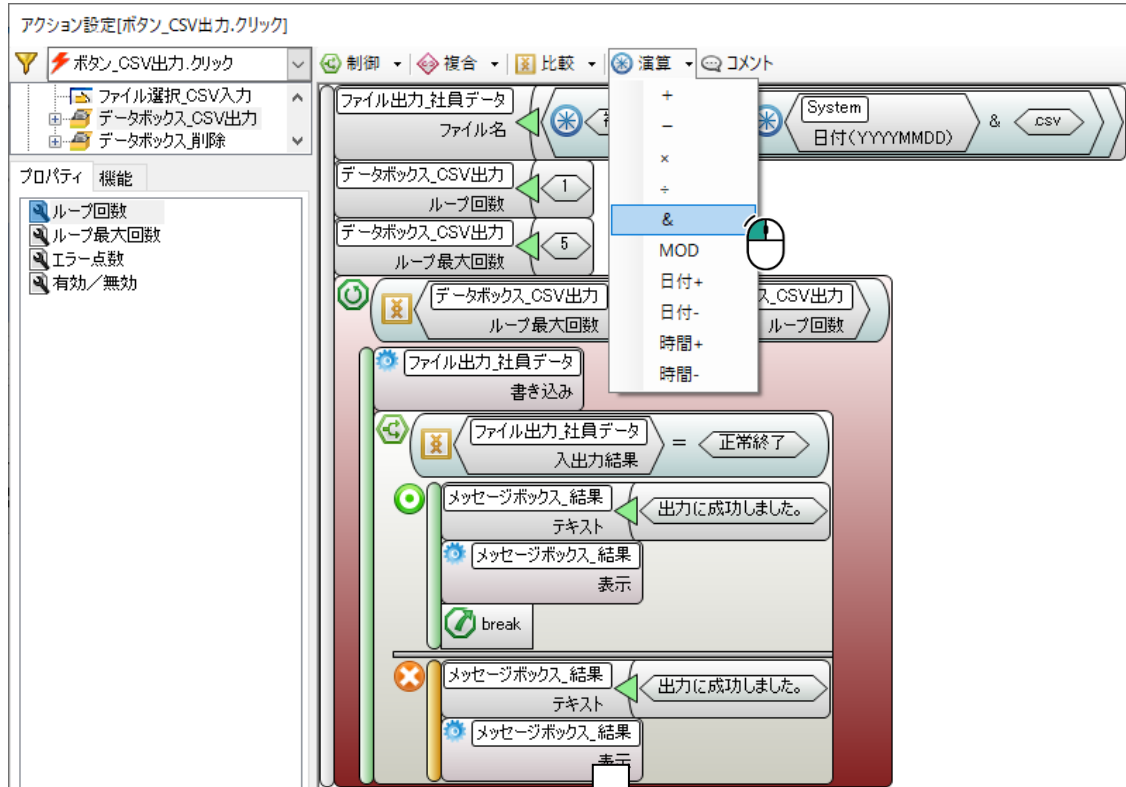


＜ループ以外の場合＞



「分岐」ブロックの条件を満たさなかった（CSV出力に失敗した）場合はメッセージを表示した後に、リトライする処理を作成します。

メッセージにはCSV出力を実行した回数を表示して、ループ処理の回数を確認できるようにします。出力結果を表示しているメッセージボックスに「演算 (&)」ブロックを組み合わせ、データボックスに保持している「ループ回数」を配置します。



[Enter]キーで改行が入ります。

最大回数を入力して、「○/○回目」と表示されるようにします。

「分岐」ブロックの条件を満たさない場合の処理の最後にはデータボックス部品のプロパティから「ループ回数」ブロックを配置し、ループ回数をカウントアップする処理を作成します。

アクション設定[ボタン_CSV出力.クリック]

ボタン_CSV出力.クリック

ファイル選択 CSV入力
データボックス_CSV出力
データボックス_削除

プロパティ 機能

- ループ回数
- ループ最大回数
- エラー点数
- 有効/無効

ファイル出力_社員データ
ファイル名 * 社員データ & System 日付(YYYYMMDD) & CSV

データボックス_CSV出力
ループ回数 1

データボックス_CSV出力
ループ最大回数 5

データボックス_CSV出力
ループ最大回数 ≥ データボックス_CSV出力
ループ回数

ファイル出力_社員データ
書き込み

ファイル出力_社員データ
入出力結果 = 正常終了

メッセージボックス_結果
テキスト 出力に成功しました。

メッセージボックス_結果
表示

break

メッセージボックス_結果
テキスト 出力に失敗しました。 & データボックス_CSV出力
ループ回数 &

メッセージボックス_結果
表示

データボックス_CSV出力
ループ回数

「演算」から「+」を選択し、「ループ回数」ブロックに代入します。

「演算 (+)」ブロックの左辺に「ループ回数」ブロックを配置し、右辺に「1」を入力します。

アクション設定[ボタン_CSV出力.クリック]

ボタン_CSV出力.クリック

ファイル選択 CSV入力
データボックス_CSV出力
データボックス_削除

プロパティ 機能

- ループ回数
- ループ最大回数
- エラー点数
- 有効/無効

ファイル出力_社員データ
ファイル名 * 社員データ & System 日付(YYYYMMDD) & CSV

データボックス_CSV出力
ループ回数 1

データボックス_CSV出力
ループ最大回数 5

データボックス_CSV出力
ループ最大回数 ≥ データボックス_CSV出力
ループ回数

ファイル出力_社員データ
書き込み

ファイル出力_社員データ
入出力結果 = 正常終了

メッセージボックス_結果
テキスト 出力に成功しました。

メッセージボックス_結果
表示

break

メッセージボックス_結果
テキスト 出力に失敗しました。 & データボックス_CSV出力
ループ回数 &

メッセージボックス_結果
表示

データボックス_CSV出力
ループ回数

データボックス_CSV出力
ループ回数 + 1

1.3 動作の確認

CSV 出力の動作確認を行きましょう。

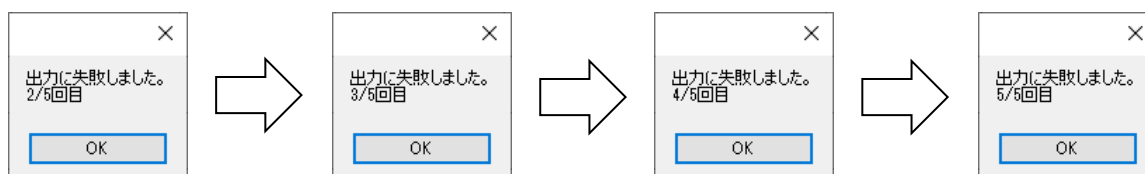
出力エラーが確認できるように、出力先のフォルダ名称を変更しておきます。

一覧画面を開き、「CSV 出力」ボタンをクリックすると、正常終了しなかった場合のメッセージボックスが表示されます。



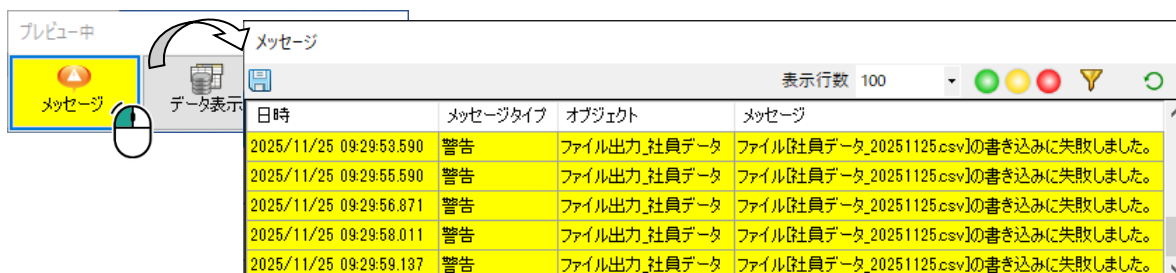
メッセージボックスの[OK]をクリックした後に、再度正常終了しなかった場合のメッセージボックスが表示され、回数の表記が更新されます。

これを最大回数分繰り返し、その後は何も起こらないことを確認します。



もう一度「CSV 出力」ボタンをクリックして、正常終了しなかった場合のメッセージボックスを表示した後に、CSV 出力が行える状態にします。メッセージボックスの[OK]をクリックすると、正常終了した場合のメッセージボックスが表示され、メッセージボックスが閉じた後何も起こらないことを確認します。

プレビュー中機能の「メッセージ」では以下のように警告のエラーメッセージが表示されます。

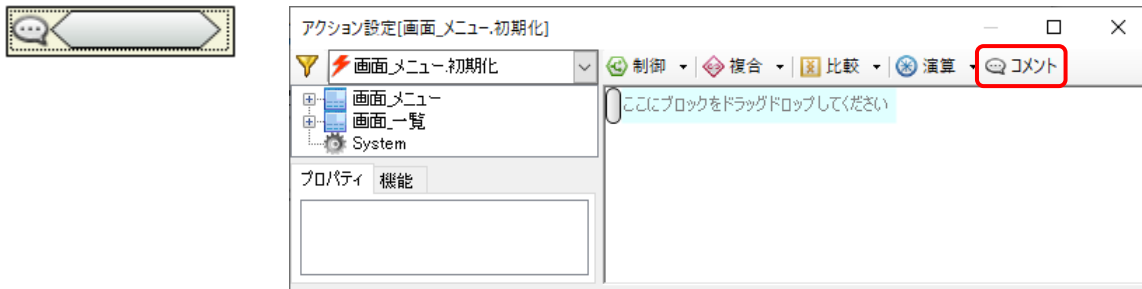


2 コメントをつける

分岐やループを使用した複雑なアクションや多くのブロックを用いたアクションを作成していくと、どこでどのような処理が行われているのか把握しづらくなります。

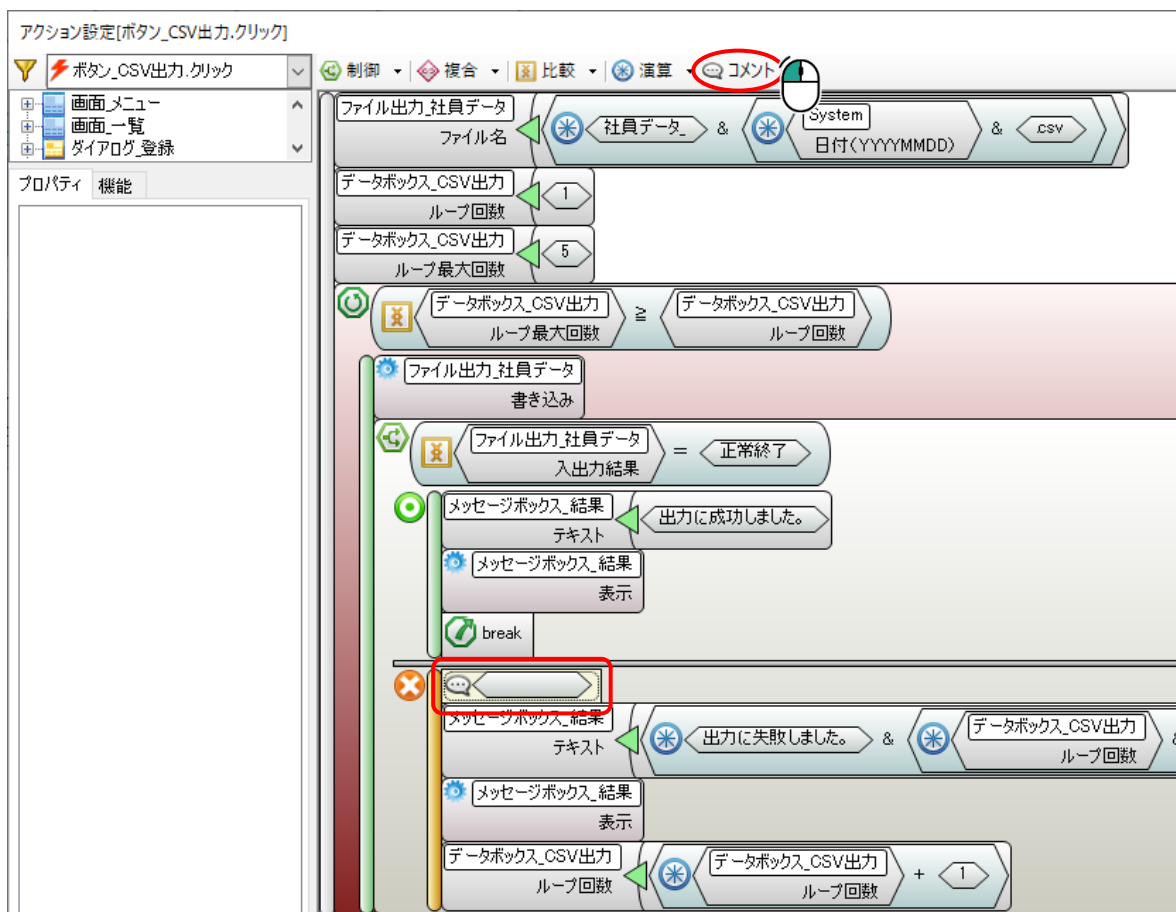
そのような場合に、アクションの動作内容を書いた「コメント」を付けることで、後々修正が出た時や複数人で作成する時の手助けになります。

また、コメントは画面に表示されませんが、プレビュー中機能の「メッセージ」に表示されます。動作確認時、表示されたコメントを確認しながらデバックを行うことができます。



『第2章1 同じ処理を繰り返す』で作成した、ループ動作にコメントを付けてみましょう。

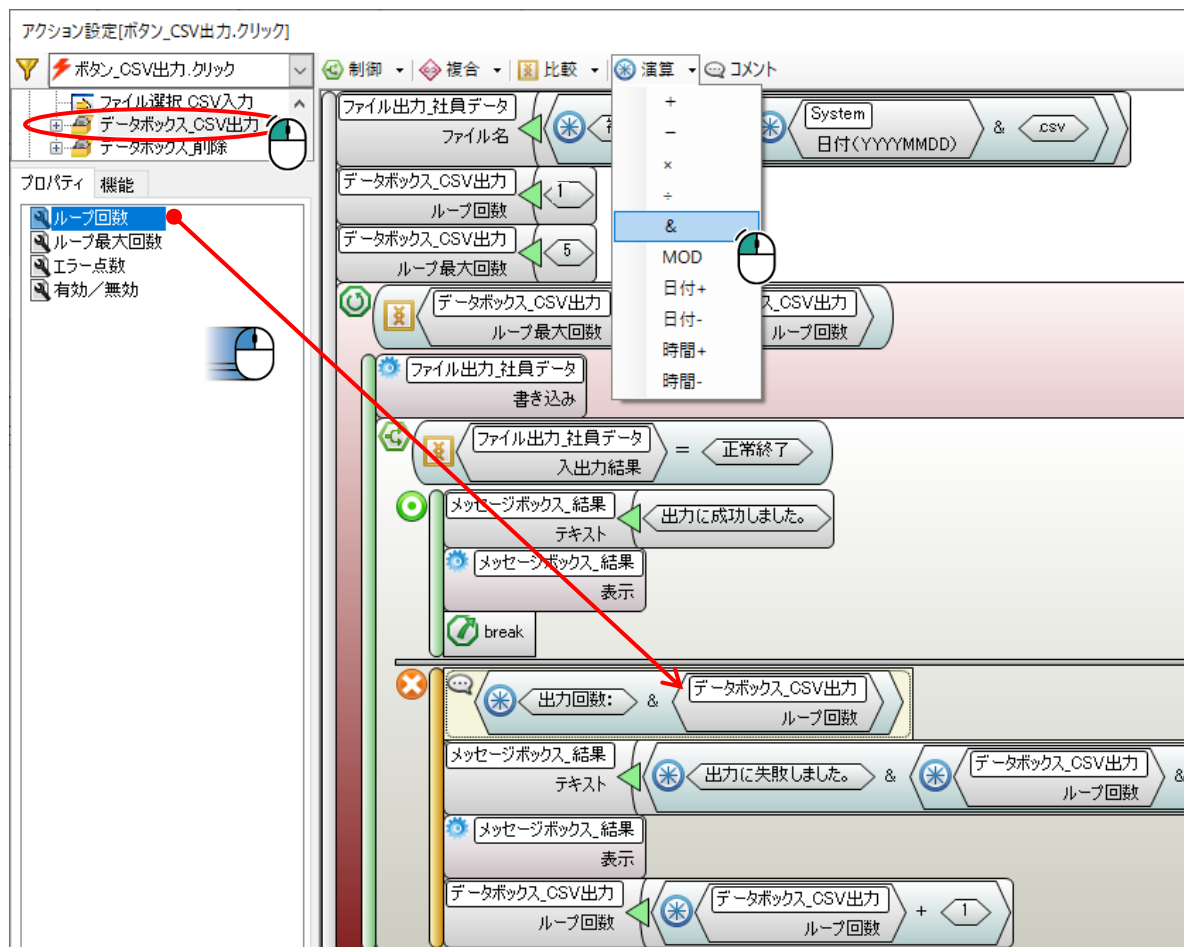
ツールバーの「コメント」をクリックして作成したブロックを、出力が失敗した時のメッセージボックス部品の上に配置します。



「コメント」ブロックにはテキスト入力や、部品のプロパティブロックを配置することができます。「演算」ブロックを使用することで値の計算やテキストの結合なども行えます。

「演算」から「&」を選択し、「コメント」ブロックに配置します。

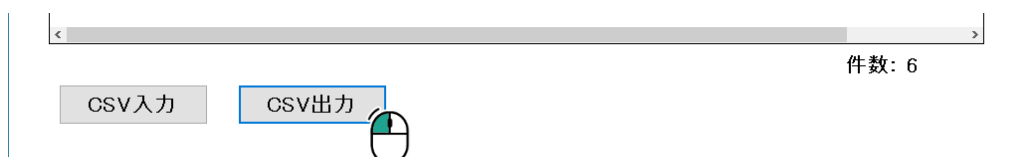
左辺に「出力回数：」とテキスト入力し、右辺にデータボックス部品の「ループ回数」ブロックを配置します。



動作を確認します。

出力エラーが確認できるように、出力先のフォルダ名称を変更しておきます。

一覧画面を開き、「CSV 出力」ボタンをクリックすると、正常終了しなかった場合のメッセージボックスが表示されるため、最大回数分メッセージボックスを表示して閉じます。



プレビュー中機能から「メッセージ」画面を開くと、以下のようにコメントが確認できます。



第3章 画面部品の使い方

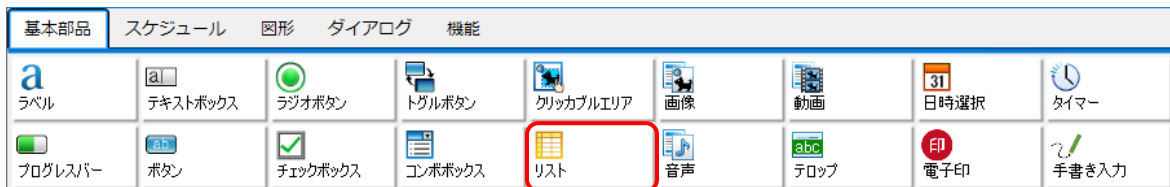
RADENには様々な部品があり、アプリケーションを作り込んでいくと必要になってくる機能も沢山あります。

本章では、まだ使用していない画面部品の機能とその使い方について説明します。新たな画面を作成し、部品に触れながら使い方を覚えていきましょう。



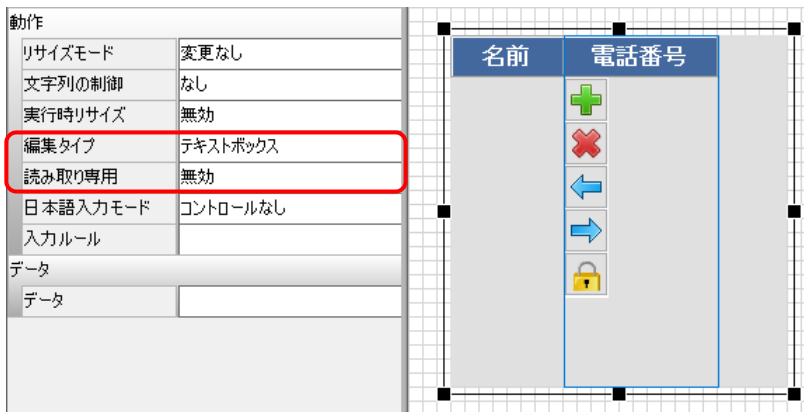
1 リスト

リスト部品は主にデータを一覧表示する部品として使用されますが、セルへの入力やデータの集計を行うこともできる部品です。



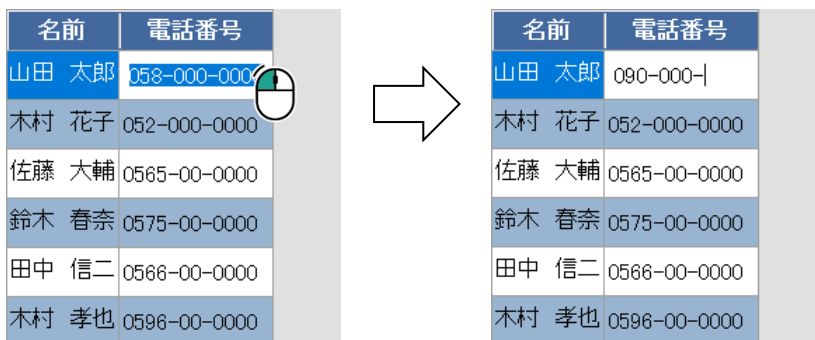
1.1 テキストボックス

セルにテキスト入力を行う場合は、列のプロパティから「読み取り専用」を「無効」にします。「編集タイプ」プロパティを「テキストボックス」に設定することで、テキストボックス部品の様な入力が行えます。



プレビューで実行します。

リスト部品のセルをクリックするとデータが選択され、データが変更できます。



リスト部品に入力したデータをテーブルに更新する場合は、テキストボックス部品やコンボボックス部品などと同じで、データリンク設定とアクション設定が必要です。

1.2 コンボボックス

列の「編集タイプ」プロパティから「コンボボックス」を選択すると、列にコンボボックスを表示することができます。

コンボボックスの入力を行う場合は、「読み取り専用」設定を「無効」にします。

入門編 Part2 で作成したリスト部品に列を追加し、コンボボックスを表示してみましょう。



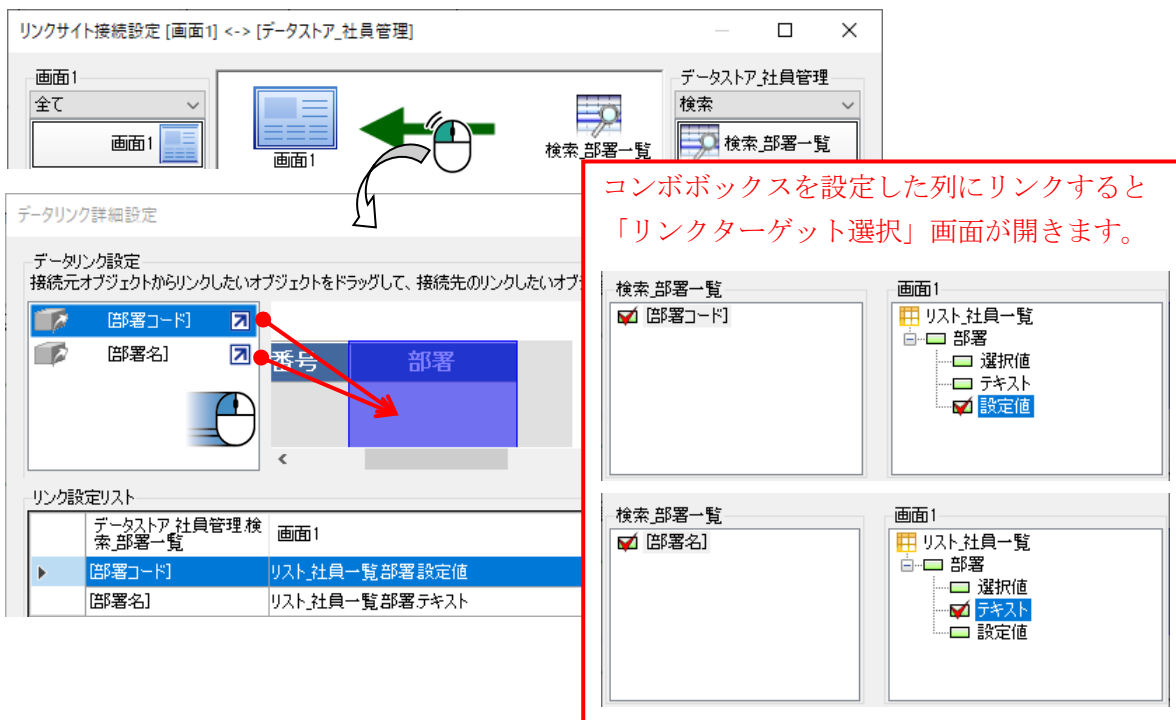
リスト部品のコンボボックスもコンボボックス部品と同様に、選択肢の設定ができます。

「データ」プロパティから「選択データ設定」画面を開き設定、または検索クエリなどのデータリンクからデータを渡すことで設定します。

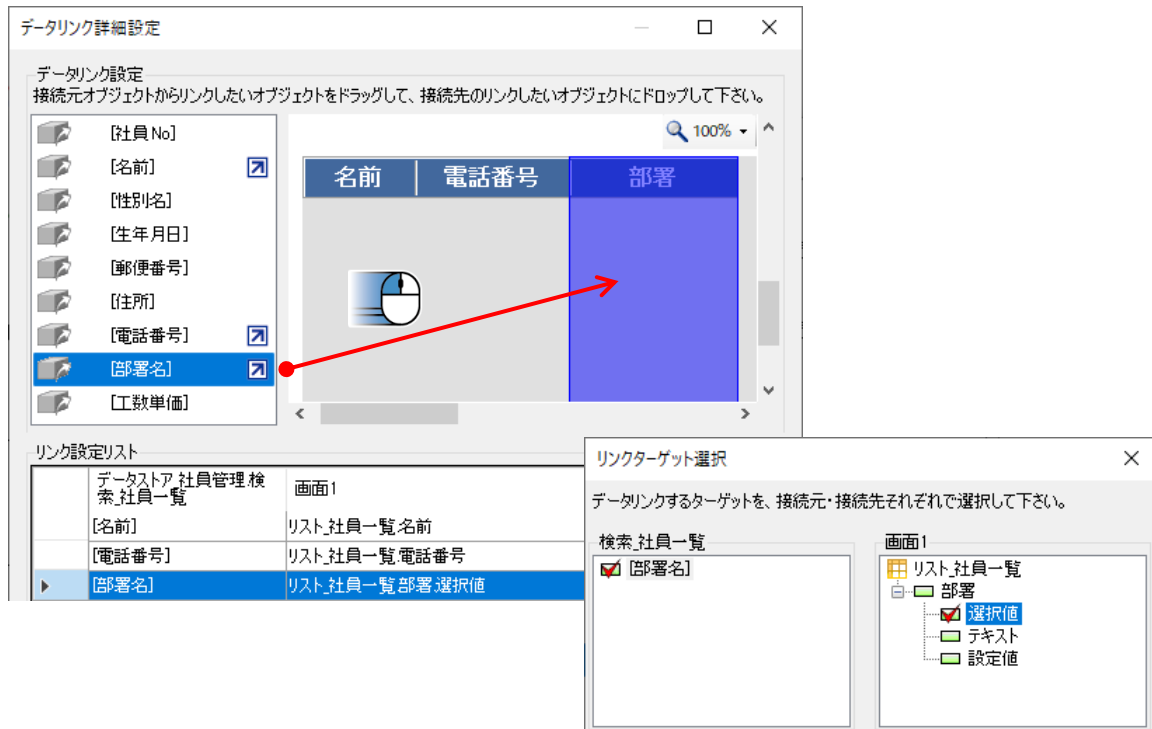
<プロパティ設定>



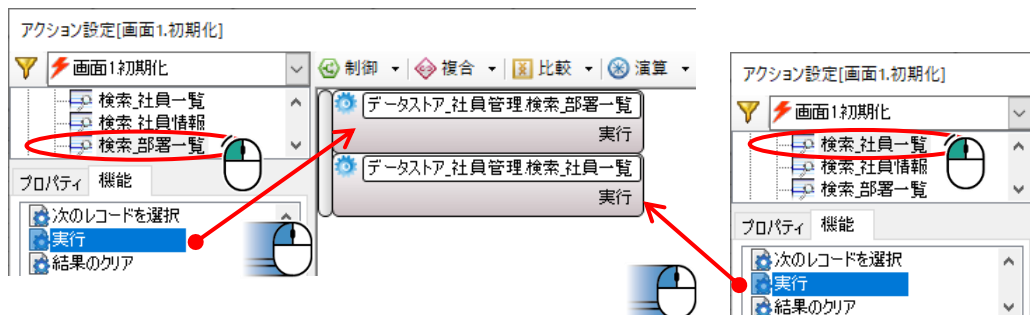
<データリンク設定>



リスト部品への一覧データ表示のデータリンクを設定する時、コンボボックスを設定した列にリンクすると「リンクターゲット選択」画面が開くため、「選択値」にチェックを入れます。



検索クエリから選択肢を表示する場合は、画面のアクション設定から検索クエリを実行する動作を作成します。



設定が完了したら、プレビューで実行します。

リスト部品にコンボボックスが表示され、クリックすると選択肢が表示されます。

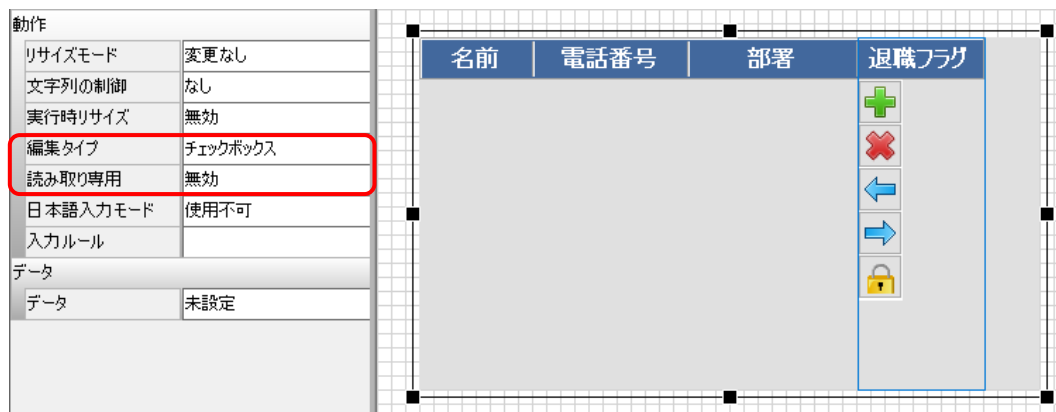
名前	電話番号	部署
山田 太郎	058-000-0000	人事部
加藤 花子	080-000-0000	人事部
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部
鈴木 春奈	0575-00-0000	人事部
田中 信二	0566-00-0000	経理部
木村 孝也	0596-00-0000	総務部
		法務部
		情報システム部
		技術部
		営業部

1.3 チェックボックス

列の「編集タイプ」プロパティから「チェックボックス」を選択すると、列にチェックボックスを表示することができます。

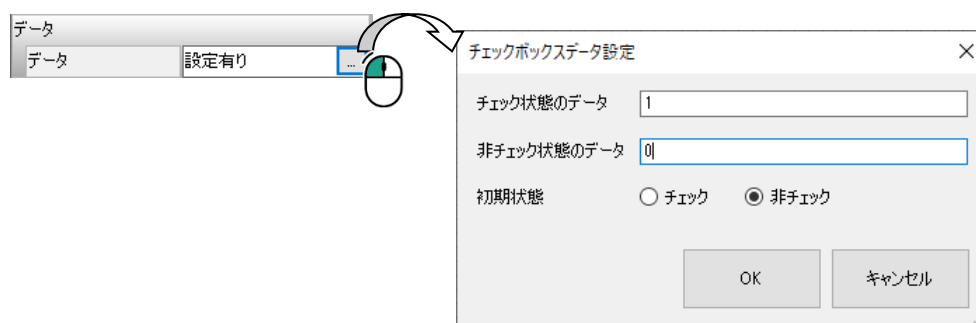
チェックボックスの入力を行う場合は、「読み取り専用」設定を「無効」にします。

入門編 Part2 で作成したリスト部品に列を追加し、チェックボックスを表示してみましょう。



リスト部品のチェックボックスもチェックボックス部品と同様に、チェックの ON/OFF に対して値を指定できます。

「データ」プロパティから「チェックボックスデータ設定」画面を開き設定します。



リスト部品への一覧データ表示のデータリンク設定に「退職フラグ」を追加します。

設定が完了したら、プレビューで実行します。

リスト部品にチェックボックスが表示され、クリックするとチェックの ON/OFF の切り替えが行えます。

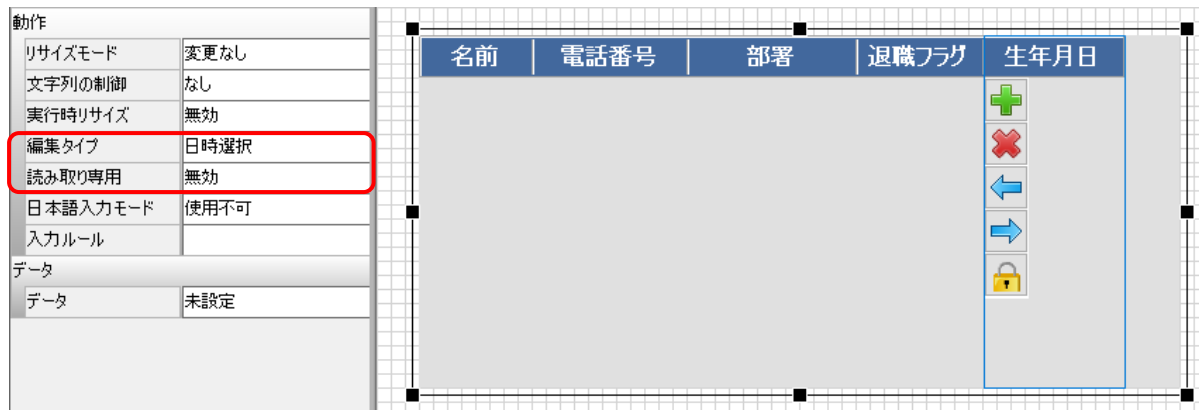
名前	電話番号	部署	退職フラグ
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>
田中 信二	0566-00-0000		<input checked="" type="checkbox"/>
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>

1.4 日時選択

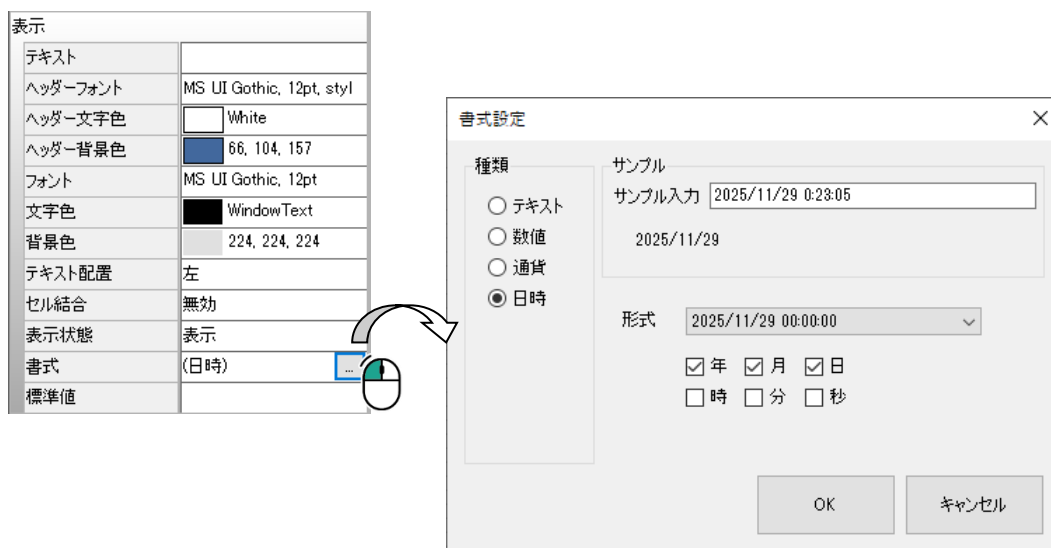
列の「編集タイプ」プロパティから「日時選択」を選択すると、セルのクリックで日時選択用のカレンダーが表示されます。

日時選択の入力を行う場合は、「読み取り専用」設定を「無効」にします。

入門編 Part2 で作成したリスト部品に列を追加し、チェックボックスを表示してみましょう。



日時選択の書式を変更する場合は、列のプロパティから「書式」を変更します。



リスト部品への一覧データ表示のデータリンク設定に「生年月日」を追加します。

設定が完了したら、プレビューで実行します。

リスト部品に「書式」プロパティで設定した形式の日付が表示され、クリックすると日付選択用のカレンダーが表示されます。

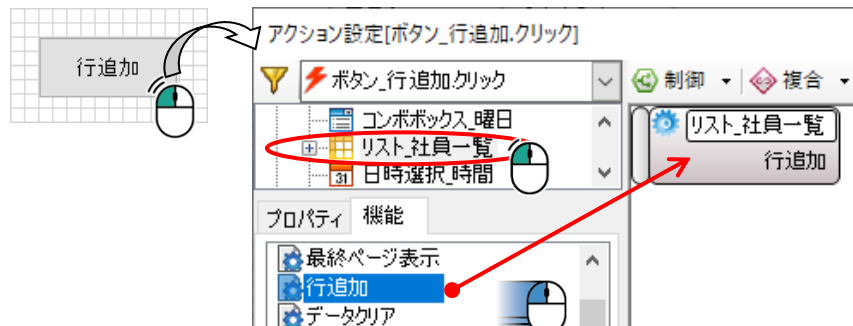
名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>	
田中 信二	0566-00-0000		<input type="checkbox"/>	
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>	

The image shows a calendar popup for the date 1968/02/02. The calendar is for the year 1968 and shows the month of February. The date 02 is selected. The current date is 2025/11/29.

1.5 行の追加

リスト部品はテーブルに登録されているデータの表示以外に、行を追加することができます。入力部品として使う場合などに作成すると便利な機能です。

行を追加する場合は、ボタン部品のクリックイベントなどのアクション設定を開き、リスト部品の機能から「行追加」を配置します。



設定が完了したら、プレビューで実行します。

「行追加」機能を設定したボタン部品をクリックすると、リスト部品の一番下に行が追加されます。

名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	1970/03/03
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>	
田中 信二	0566-00-0000		<input type="checkbox"/>	
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>	

行追加

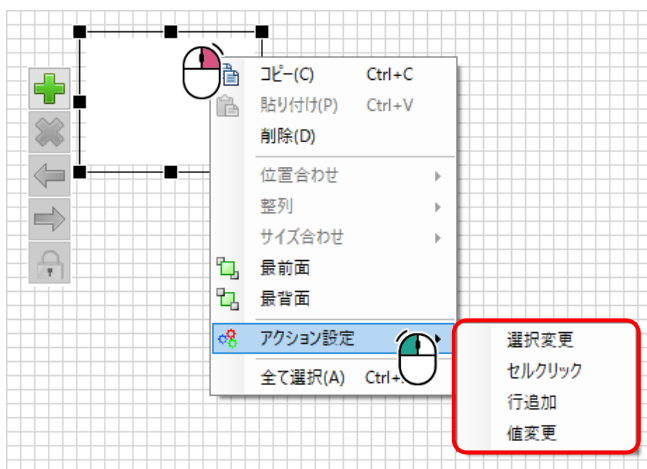
↓

名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	1970/03/03
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>	
田中 信二	0566-00-0000		<input type="checkbox"/>	
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	

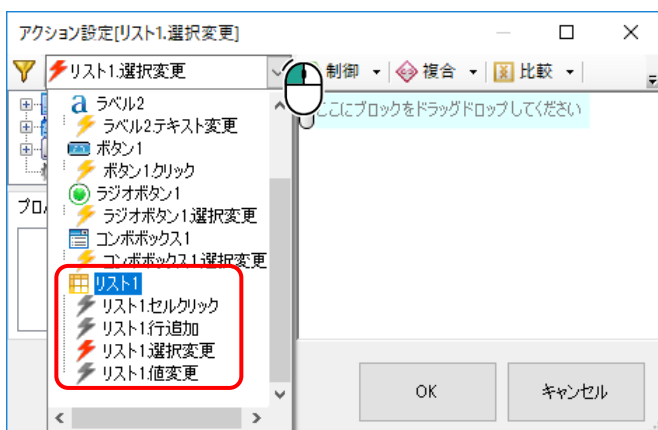
行追加

1.6 リストのイベント

リストにはイベントが4種類あり、「選択変更」「行追加」「値変更」「セルクリック」の各イベントにアクションを設定できます。



リスト部品のダブルクリックによりアクション設定画面を表示した場合は、「選択変更」のアクション設定が表示されます。他の設定は、リストの右クリックから開くか、アクション設定画面を開いた状態で、左上のイベントリストから選択することもできます。



イベントリストでは、アイコンによってアクションの設定状態を確認できます。表示されるアイコンは3種類です。

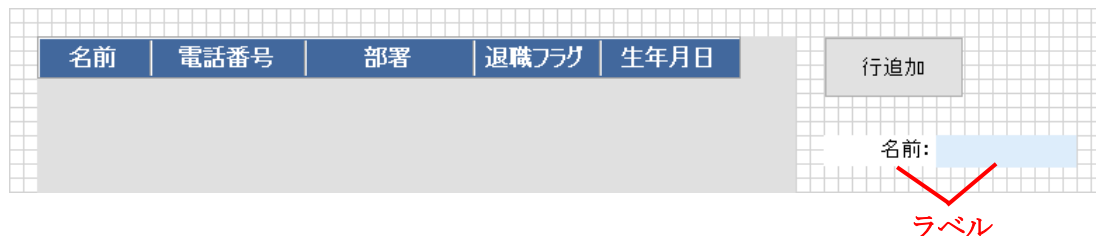
アイコン	設定状態
⚡ (灰色)	アクションが設定されていない状態
⚡ (黄色)	アクションが設定されている状態
⚡ (赤色)	現在、アクションを編集中的の状態

1.6.1 選択変更

リスト部品に表示されている行を選択した時に発生するイベントが、「選択変更」です。

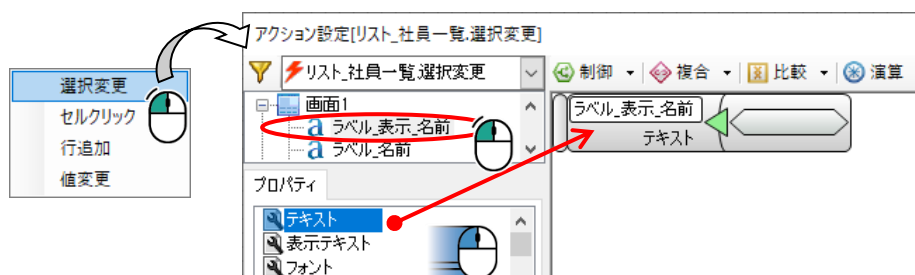
リスト部品は選択されている行が青色で表示され、マウスのクリック、キーボードの上下左右矢印キーの押下、アクション設定などで選択を変更することができます。

行を選択した時に、ラベル部品に行のデータを表示する動作を作成してみましょう。

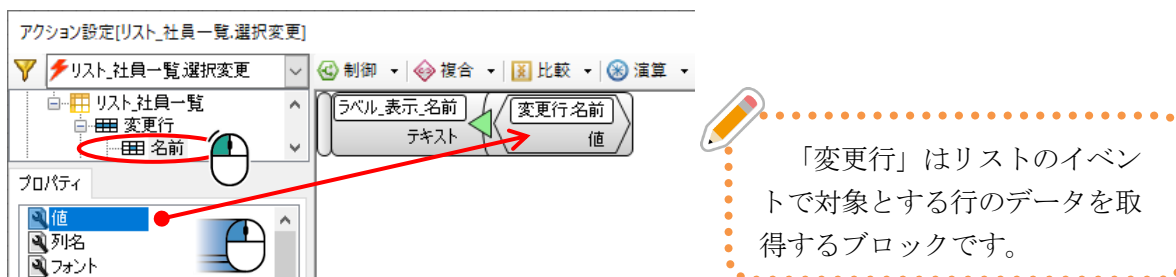


画面にラベル部品を配置して、リスト部品のダブルクリック、または右クリックで[アクション設定]-[選択変更]からアクション設定画面を開きます。

ラベル部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。

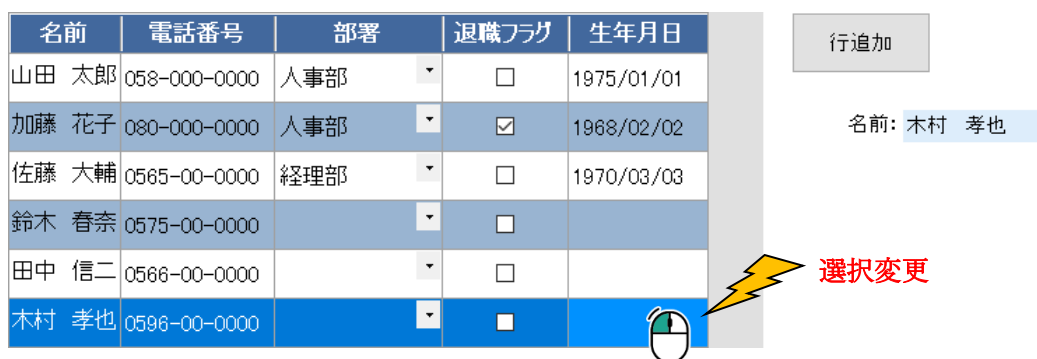


リスト部品の「変更行」から列を選択し、プロパティの「値」ブロックを「テキスト」ブロックに代入します。



プレビューで実行します。

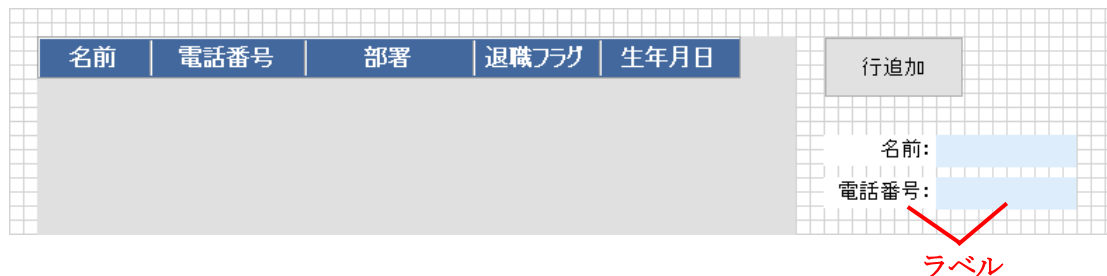
リスト部品の行をクリック、またはキーボードの上下矢印キーの押下で行の選択を変更すると、ラベル部品に選択した行のデータが表示されます。



1.6.2 セルクリック

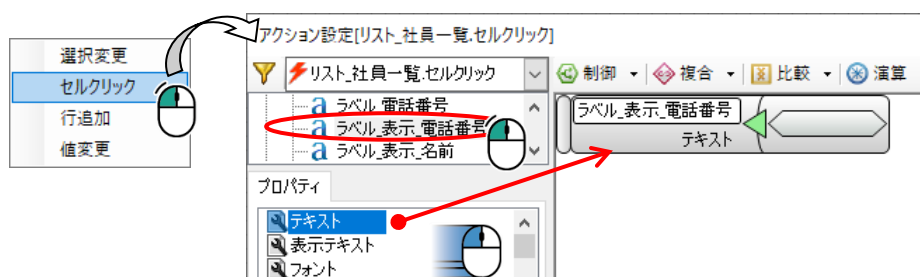
リストのセルがクリックされた時に発生するイベントが、「セルクリック」です。

「選択変更」と発生タイミングが似ていますが、「セルクリック」はマウスでクリックした時に発生し、「選択変更」はマウスでクリックした以外の操作でも選択が変更された時に発生します。行をクリックした時に、ラベル部品に行のデータを表示する動作を作成してみましょう。



画面にラベル部品を配置して、リスト部品の右クリックで[アクション設定]-[選択変更]からアクション設定画面を開きます。

ラベル部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。

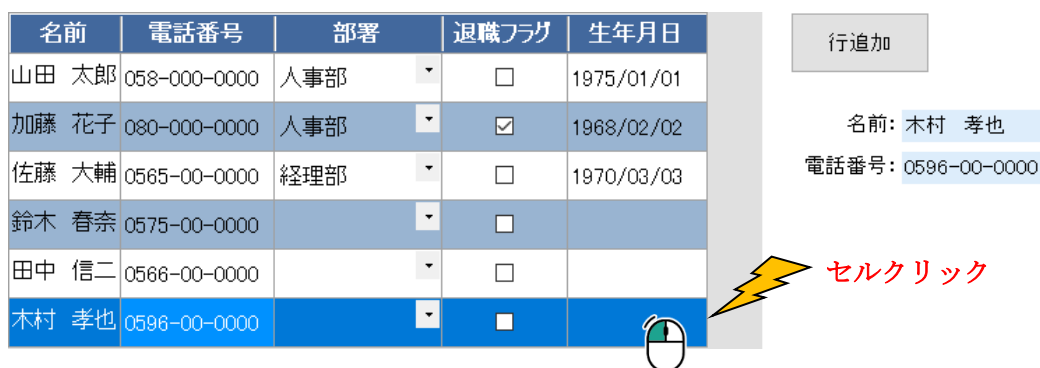


リスト部品の「変更行」から列を選択し、プロパティの「値」ブロックを「テキスト」ブロックに代入します。



プレビューで実行します。

リスト部品の行をクリックすると、ラベル部品にクリックした行のデータが表示されます。



キーボードの上下矢印キーの押下で選択を変更した場合はデータの表示が更新されません。

名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	1970/03/03
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>	
田中 信二	0566-00-0000		<input type="checkbox"/>	
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>	

「選択変更」イベントで表示している方は更新されています。

名前: 加藤 花子
電話番号: 0596-00-0000

「セルクリック」イベントで表示している方は更新されていません。



リスト部品は「編集タイプ」プロパティの「ボタン」を選択することでリストにボタンを表示することができます。

他の編集タイプと違い、ボタン自体に特別な機能はなく、主に変化するのは見た目だけです。セルクリックイベントと組み合わせることで、ボタン部品と同じような動作を作成することができます。

動作	
リサイズモード	変更なし
文字列の制御	なし
実行時リサイズ	無効
編集タイプ	ボタン
読み取り専用	無効
日本語入力モード	使用不可
入力ルール	

例えば、ボタンをクリックした時にクリックした列の情報を編集する画面を開く動作や、クリックした行の情報を削除する動作などを作成できます。

名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日	編集
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01	
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02	
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	1970/03/03	
鈴木 春奈	0575-00-0000		<input type="checkbox"/>		
田中 信二	0566-00-0000		<input type="checkbox"/>		
木村 孝也	0596-00-0000		<input type="checkbox"/>		

社員情報登録

社員No: 退職

名前:

性別: 男性 女性 その他

生年月日:

郵便番号:

住所:

電話番号:

部署:

工数単価:

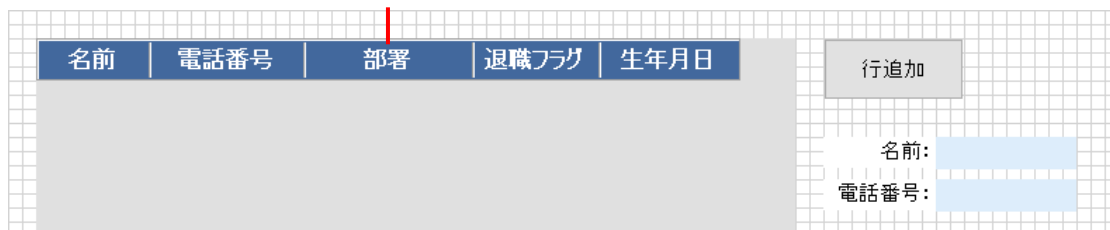
登録 閉じる

1.6.3 行追加

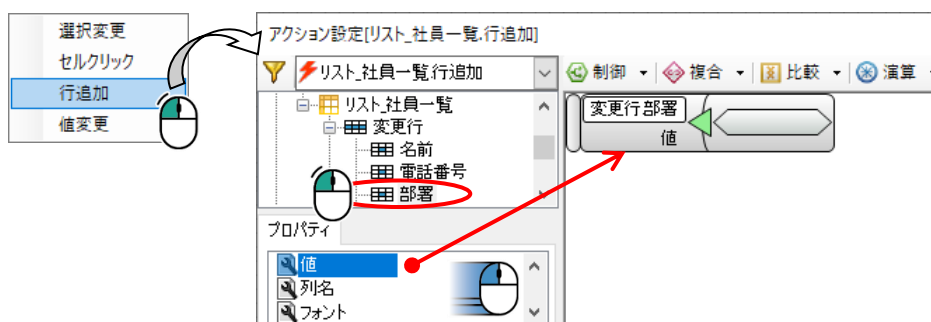
リスト部品に行を追加した時に発生するイベントが「行追加」です。行追加とは『第3章 1.5 行の追加』で作成した行追加の機能のことです。

行を追加した時に、【部署】列のコンボボックスにデフォルト値を表示する動作を作成してみましょう。

コンボボックス設定列

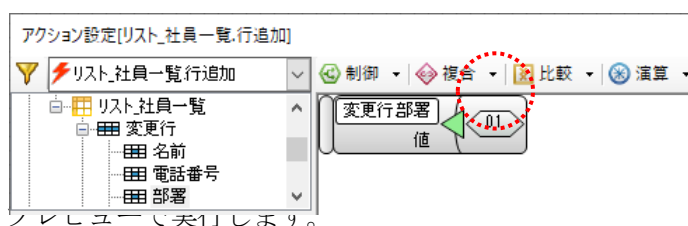


リスト部品の右クリックで[アクション設定]-[行追加]からアクション設定画面を開きます。リスト部品の「変更行」から列を選択し、プロパティの「値」ブロックを配置します。



「値」ブロックにはコンボボックスに設定するデフォルト値を入力します。

コンボボックスは画面に表示するテキストと内部で識別する「設定値」があり、コンボボックスの選択を変更する場合は「設定値」を入力します。（コンボボックスの「データ」プロパティから選択肢を作成した場合は「データ」に設定した値）



プレビューで実行しより。

「行追加」ボタンのクリックで行が追加され、追加された行のコンボボックスに設定したデータが表示されます。



1.6.4 値変更

リスト部品が値が変更された時に発生するイベントが、「値変更」です。データリンクからデータ表示した場合や、リスト部品に値を入力した場合に発生します。

【退職フラグ】列のチェックボックスのON/OFFを切り替えた時、ONの場合に行の文字色が変わる動作を作成してみましょう。

チェックボックス設定列

名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
行追加				
名前: <input type="text"/>				
電話番号: <input type="text"/>				

リスト部品の右クリックで[アクション設定]-[値変更]からアクション設定画面を開きます。

「制御」から「分岐」を配置します。リスト部品の「変更行」から列を選択し、プロパティから「値」を「分岐」ブロックの条件に配置します。

「分岐」ブロックの条件を満たす場合、満たさない場合の処理に、リスト部品の「変更行」から列を選択し、プロパティから「文字色」ブロックを配置します。条件を満たす場合の処理の「文字色」を赤色に変更します。

プレビューで実行します。

画面を表示すると、「退職フラグ」列にチェックの付いている行の色が赤色で表示されます。チェックの付け外しで色が変わります。

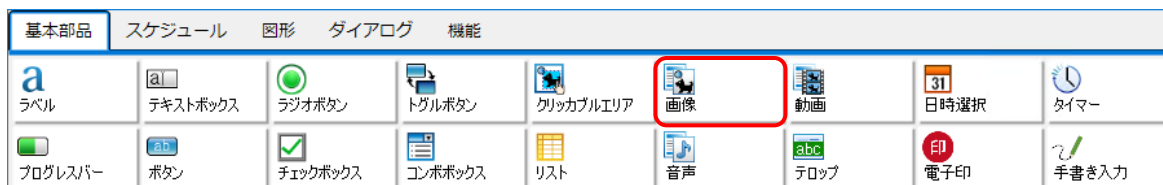
名前	電話番号	部署	退職フラグ	生年月日
山田 太郎	058-000-0000	人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
加藤 花子	080-000-0000	人事部	<input checked="" type="checkbox"/>	1968/02/02
佐藤 大輔	0565-00-0000	経理部	<input type="checkbox"/>	1970/03/03

部署	退職フラグ	生年月日
人事部	<input type="checkbox"/>	1975/01/01
人事部	<input type="checkbox"/>	1968/02/02
経理部	<input checked="" type="checkbox"/>	1970/03/03

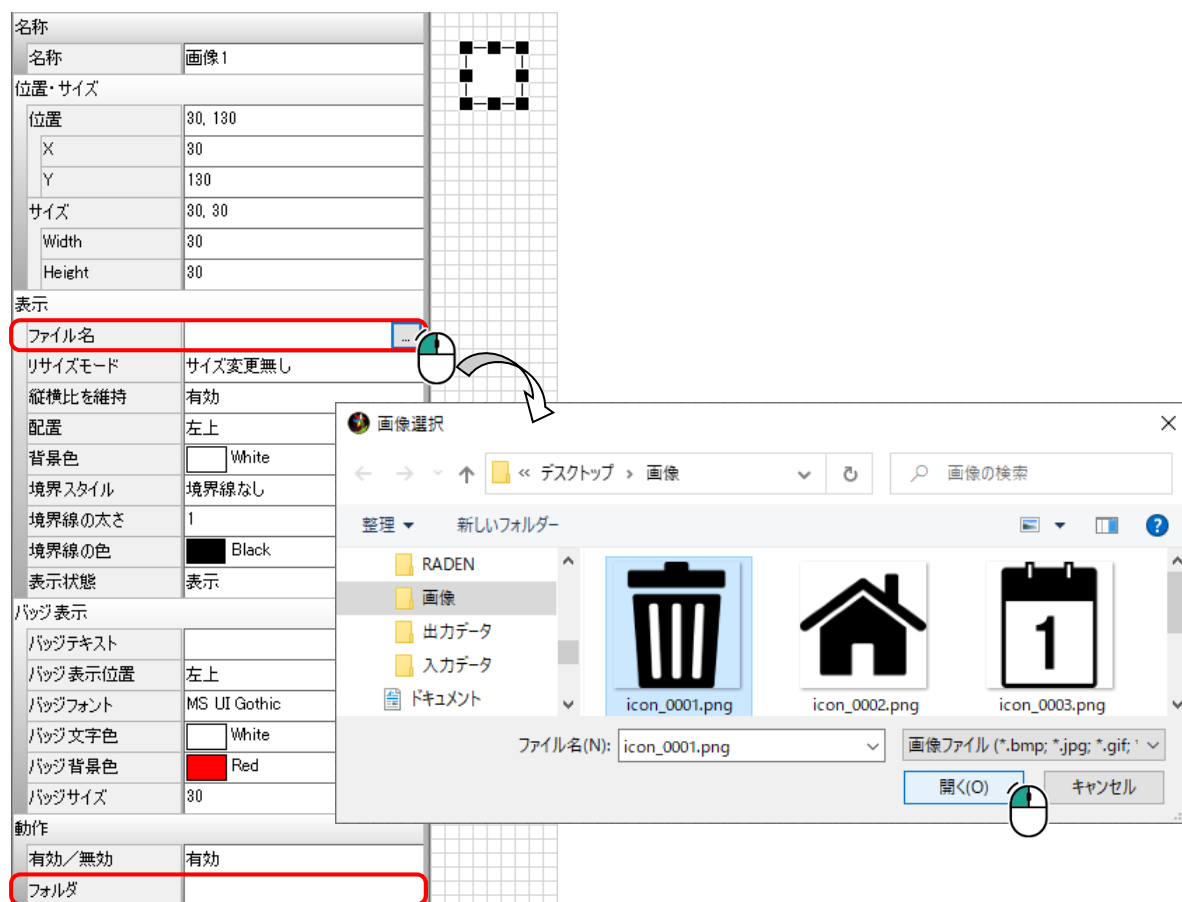
2 画像

画像部品は、画面に画像を表示させる部品です。

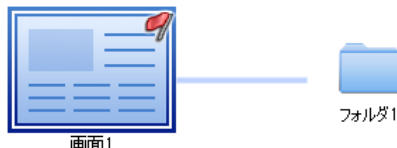
ボタン部品と同じクリックイベントを持ち、アクション設定が行えます。RADEN の部品では表現できないアイコンや装飾が必要な場合に有用な部品です。



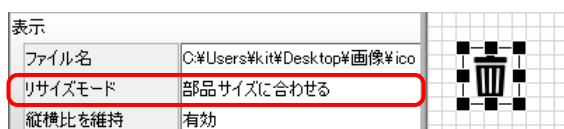
配置した画像部品の「ファイル名」プロパティに表示する画像のファイルパスを設定します。



「フォルダ」オブジェクトでフォルダパスを保持することができます。画面オブジェクトとフォルダオブジェクトを「参照コネクタ」で繋ぎ、「フォルダ」プロパティに接続したフォルダオブジェクトを設定します。



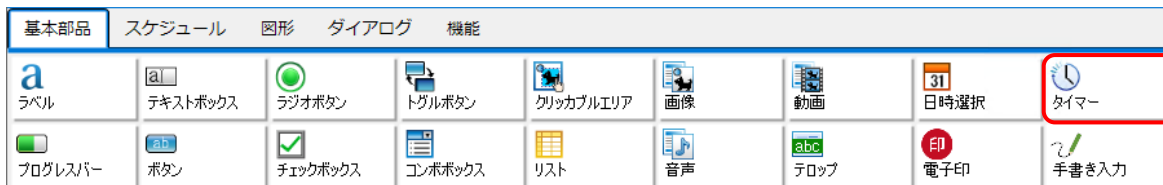
表示画像の大きさに合わせる場合は部品サイズを変更し、部品サイズに画像を合わせる場合はプロパティの「リサイズモード」を「部品サイズに合わせる」に設定します。



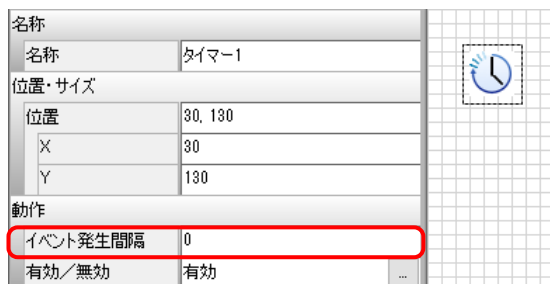
3 タイマー

タイマー部品は、指定した時間間隔でイベントを発生させる部品です。一定時間毎に設定したアクションを実行することができます。

※この部品は実行時、画面に表示されません。



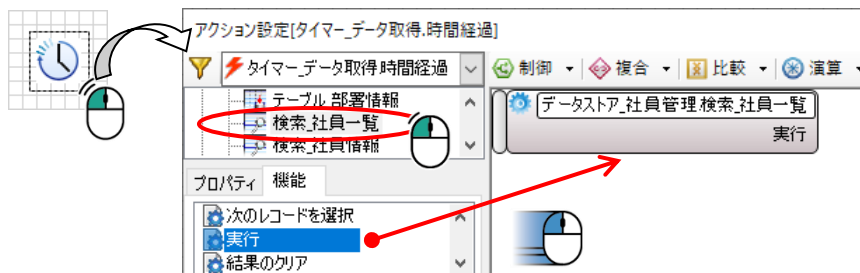
イベントを発生させる時間間隔は「イベント発生間隔」プロパティに設定します。「1/1000」秒単位で設定でき、5秒で指定する場合は「5000」と入力します。



3.1 時間経過イベント

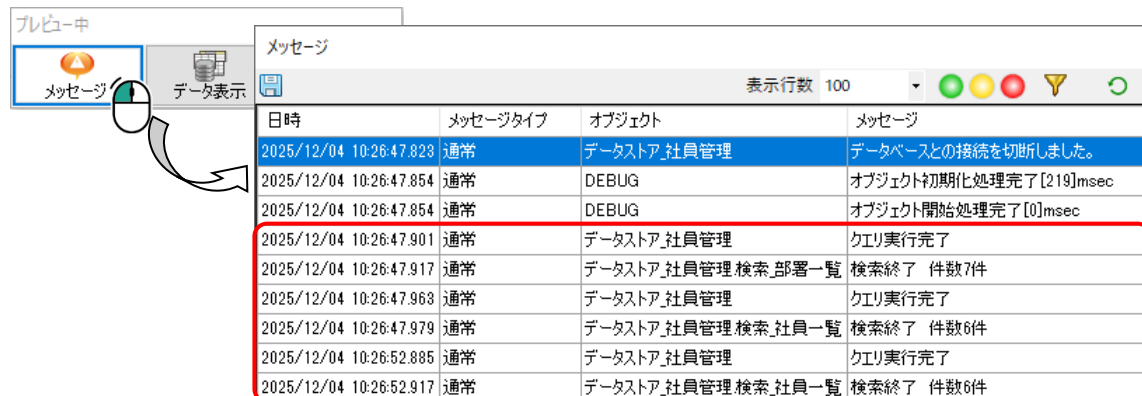
画面に表示しているテーブルの情報が常に最新データを取得するように、時間経過で検索クエリが動作する処理を作成してみましょう。

配置したタイマー部品の時間経過イベントからアクション設定画面を開きます。



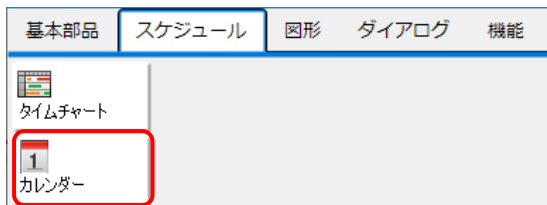
設定が完了したら、プレビューで実行します。

検索クエリが指定した時間間隔で動作していることを、「プレビュー中」画面の「メッセージ」ボタンから動作メッセージを表示して確認します。



4 カレンダー

カレンダー部品は、画面にカレンダーを表示して日付に対する予定の表示や日付選択をお行う部品です。



レイアウトはプロパティから変更できます。土曜日・日曜日の色の変更など、曜日列ごとに指定する場合は、「表示設定」から行います。

名称	カレンダー-1
位置・サイズ	
位置	30, 130
X	30
Y	130
サイズ	270, 180
Width	270
Height	180
表示	
表示月	2025/12/04 10:33
詳細設定	(設定)
表示状態	表示
データ	
データ	(コレクション)
動作	
選択日付	
選択モード	無効
複数選択	無効
有効/無効	有効

2025年12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

画面表示時の表示月を設定します。

カレンダー詳細設定

2025年12月						
日	月	火	水	木	金	土
	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2
Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2
Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2
Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2
Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2	Memo 1 Memo 2

列やヘッダーを個別で変更する場合は、列を選択し、「個別項目表示」タブから設定します。

全体表示 複数月表示 **個別項目表示**

年月表示 年月表示 ▼ 高さ

前月・次月の日付を表示

月切り替えボタンを表示

週の開始曜日 日 ▼

表示言語 既定の言語 ▼

カレンダーの境界線 境界線あり ▼

境界線の幅 ▼

グリッド線 幅 ▼

日付の表示位置 中央

メモ表示行数

メモフォント MS UI Gothic, 9pt

メモ表示色 黒

メモの表示位置 中央

4.1 表示月の切り替え

前の月/次の月の切り替え動作は、「詳細設定」プロパティの設定、またはアクション設定から作成できます。

プロパティで作成する場合は、カレンダー詳細設定画面を開き、「月切り替えボタンを表示」にチェックを入れると、ヘッダーの左右に「◀」「▶」が表示されます。

カレンダー-詳細設定

2025年12月						
日	月	火	水	木	金	土
	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2
Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2
Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2
Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2
Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2	Memo1 Memo2			

前月・次月の日付を表示
 月切り替えボタンを表示

年月表示: 年月表示 | 高さ: 24 | カレンダーの境界線: 境界線あり | メモ表示行数: 2
 境界線の幅: 1 | メモフォント: MS UI Gothic, 9pt
 グリッド線 幅: 1 | メモ表示色: 黒
 日付の表示位置: 中央 | メモの表示位置: 中央

アクション設定に切り替え動作を作成する場合は、ボタン部品のクリックイベントなどにアクション設定します。



ボタン部品を配置して、クリックイベントのアクション設定画面を開きます。

カレンダー部品の機能から「前月表示」または「次月表示」ブロックを配置します。

アクション設定[ボタン_前月.クリック]

- ボタン_前月.クリック
- 制御
- 複合
- 画像1
- カレンダー-1
- 三角形1

プロパティ 機能

- 次月表示
- 前月表示
- データクリア

アクション設定[ボタン_次月.クリック]

- ボタン_次月.クリック
- 制御
- 複合
- 画像1
- カレンダー-1
- 三角形1

プロパティ 機能

- 次月表示
- 前月表示
- データクリア

4.2 メモの表示

テーブルに登録されているデータをカレンダー部品に渡すことで、日付にメモを表示できます。社員のスケジュール管理や会議室の予約管理など、日付に対して登録したデータを表示する時に重宝します。

簡単なテーブルを作成し、カレンダーにメモを表示してみましょう。

2016年12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

メモを表示する場合は、データリンクでテーブルまたはクエリからカレンダー部品にデータを渡します。

データリンクコネクタを接続し、データリンク詳細設定画面からリンク設定します。

データリンク設定	接続元	接続先	インデックス
日付	データストア.社員管理スケジュール	画面1	インデックス
内容	データストア.社員管理スケジュール	画面1	インデックス

リンク設定時、「リンクターゲット選択」画面が開きます。

日付のデータは「日付」に、メモ表示するデータは「メモ」にチェックをいれます。

リンクターゲット選択	リンクターゲット選択
スケジュール <input checked="" type="checkbox"/> 日付	スケジュール <input checked="" type="checkbox"/> 内容
画面1 カレンダー-1 <input checked="" type="checkbox"/> 日付 <input type="checkbox"/> メモ <input type="checkbox"/> データ	画面1 カレンダー-1 <input checked="" type="checkbox"/> 日付 <input checked="" type="checkbox"/> メモ <input type="checkbox"/> データ

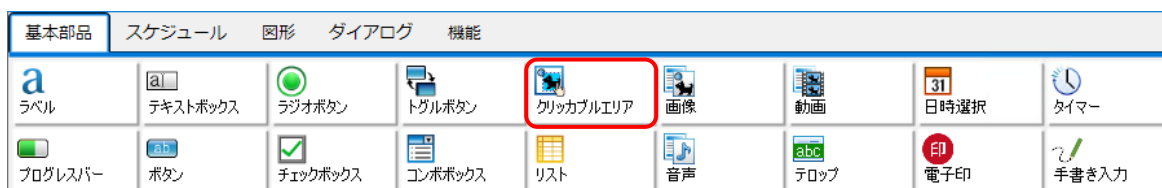
画面の初期化イベントなどのアクション設定にデータ取得の動作を設定し、プレビューで実行します。

カレンダーにメモが表示されることを確認します。

2025年12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1 【外出】A社打	2	3	4	5 在宅勤務	6
7	8	9	10	11 展示会	12 展示会	13
14	15	16	17 【社内】打合せ 【外出】B社打	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29 有給休暇	30 有給休暇	31			

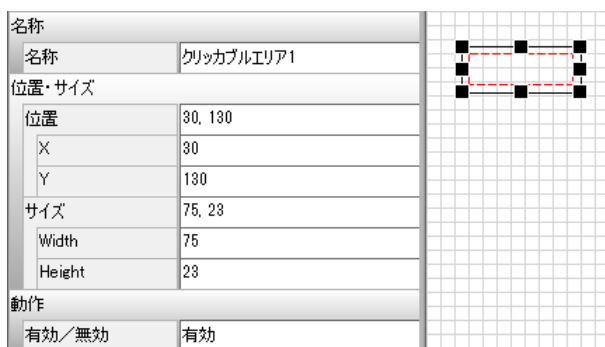
5 クリックابلエリア

クリックイベントは、ボタン部品や画像部品などの特定の部品で発生するイベントですが、クリックابلエリアを使うと、それらの部品がない場所でもクリックイベントを発生させることができます。



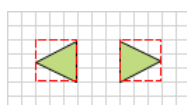
クリックابلエリア部品を配置すると、下図のような部品が表示されます。赤い線に囲まれた部分でクリックのイベントが使えるようになります。

※実行時、赤い線は表示されません。



<使用例>

図形部品との組み合わせ



ラベル部品との組み合わせ



以上で、『RADEN を使おう！ 実践編 Part2』は終了です。お疲れ様でした。

RADEN を使おう！はいかがでしたか？

入門編・実践編を通して、アプリケーションを開発できたでしょうか。

これから様々なアプリケーションを RADEN で作成していきましょう。

もっと詳しく RADEN を知りたい方、まだ分からない機能がある方は「テクニカル集」が助けになると思います。参考にしてください。

また、ホームページ (<http://www.kit-japan.co.jp/>) のサポートページからご質問を受け付けています。お困りの際はこちらでもご利用ください。

RADEN を使おう！

実践編 Part2

2026年 5月14日 第1版

発行

株式会社 KIT

〒460-0026

愛知県名古屋市中区伊勢山2丁目11-15 ASビル金山

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.